いわて未来づくり機構
令和2年度総会・第2回ラウンドテーブル

日時：令和２年 11 月 12 日（木）
総　会　　　　　　9:45～10:05
ラウンドテーブル　10:05～12:00
会場：アートホテル盛岡　３階鳳凰の間

次　　第

総会　9:45～10:05

１　開会
２　共同代表挨拶
３　議事
(1) 議案第１号　令和元年度活動実績（案）について
(2) 議案第２号　令和２年度活動計画（案）について

ラウンドテーブル　10:05～12:00

テーマ「地域を牽引する産学官連携及び高等教育の将来像」

１　講演
講師　経済産業省 東北経済産業局長　渡邉　政嘉　氏
セルスペクト株式会社 代表取締役兼 CEO　岩渕　拓也　氏

２　ディスカッション

３　閉会

出席者

【講師】

経済産業省 東北経済産業局長　渡邉　政嘉　氏
セルスペクト株式会社 代表取締役兼 CEO　岩渕　拓也　氏

【ラウンドテーブルメンバー】

氏　　名	所　　属・職　　名
谷村　邦久	岩手県商工会議所連合会 会長 みちのくコカ・コーラボトリング㈱代表取締役会長
高橋　真裕	(一社)岩手経済同友会代表幹事、㈱岩手銀行代表取締役会長
米谷　春夫	大船渡商工会議所会頭、㈱マイヤ代表取締役会長
小川　　智	岩手大学 学長
鈴木　厚人	岩手県立大学 学長
達増　拓也	岩手県知事

【企画委員会委員】

氏　　名	所　　属・職　　名
堀江　　淳	岩手県立大学副学長(総務)／事務局長【企画委員長】
橋本　良隆	岩手県商工会議所連合会専務理事
佐々木 泰司	㈱岩手銀行 常務取締役
藤代　博之	岩手大学理事（総務・企画・評価・広報担当）／副学長
八重樫 幸治	岩手県政策企画部長

【作業部会座長】

氏　　名	所　　属・職　　名
小川　晃子	医療福祉連携作業部会座長 岩手県立大学名誉教授・特命教授
高橋　則仁	【欠席】かけ橋作業部会座長 岩手県ふるさと振興部県北・沿岸振興室特命参事兼沿岸振興課長
田代　高章	復興教育作業部会座長　岩手大学教育学部教授
菊池　芳彦	いわて復興未来塾作業部会座長　岩手県復興局副局長
古舘　慶之	ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ推進作業部会座長　岩手県政策地域部科学・情報政策室長
庄司 知恵子	子育て支援作業部会座長　岩手県立大学社会福祉学部准教授
高橋則仁（再掲）	【欠席】新しい三陸創造作業部会座長(※)　岩手県ふるさと振興部県北・沿岸振興室特命参事兼沿岸振興課長
小野寺 純治	ふるさといわて創造作業部会座長(※)　岩手大学研究支援・産学連携センター客員教授

※ 令和元年度で活動終了

議案第１号

令和元年度活動実績（案）について

いわて未来づくり機構 会則第７の３（２）により、令和元年度活動実績について、次のとおり承認を求める。

令和２年11月12日

いわて未来づくり機構 令和元年度 実績報告

1　総会・ラウンドテーブルの開催

	内　容
■総会 開催日：R 1.7.8(月) 場所：サンセール盛岡	・会則改正、平成30年度活動実績、令和元年度活動計画を承認 ・「脱優等生が創るニッポンの未来」と題し、慶応義塾大学　先端生命科学研究所 所長 冨田　勝氏より講演
■第１回ラウンドテーブル 開催日・場所：　同上	・「国際研究拠点の形成とイノベーションの創出」をテーマにディスカッション
■第２回ラウンドテーブル 開催日：R1.12.13(金) 場所：サンセール盛岡	・ 各作業部会から活動状況を報告し、報告された内容についてディスカッション ・「北上川バレープロジェクト」アドバイザリーボードについて、事務局から情報提供
■第３回ラウンドテーブル 開催日：R2.2.18(火) 場所：サンセール盛岡	・「SDGs達成に向けた内外の取組と地方創生」と題し、国連大学サステイナビリティ高等研究所 上級客員教授 竹本和彦氏より講演 ・「SDGsの視点による今後の地域づくり」をテーマにディスカッション ・「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン（素案）」の概要について報告

2 「北上川バレープロジェクト」アドバイザリーボード

	内　容
■シンポジウム・セミナー等での講演	1　市町村・県職員向け勉強会 ①日時　令和元年11月25日（月）（サンセール盛岡） ②内容　（ア）「Society5.0と地方創生」 講師：堀健一　氏 （イ） 次世代の社会インフラとしてのシェアリングエコノミー　講師：蓑口恵美　氏 2 「AI実装促進に向けたキックオフセミナー」 ①日時　令和2年1月30日(木)(エスポワールいわて) ②内容　産業・社会の変革にAIが果たす役割と地方における取組の必要性について ～AI for Society 5.0～　講師：本村陽一　氏 3　第2回北上川バレープロジェクトシンポジウム ①日時　令和2年2月10日（月）（岩手大学銀河ホール） ②内容　「省エネ社会を拓く革新的半導体技術と岩手への期待 ～地域と世界を繋げるオープンイノベーション型産学官金連携～」 講師：東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター長 遠藤哲郎　氏
■現地調査	堀氏　：花北地域まちづくりグランドデザイン研究会との意見交換 矢巾町・紫波町・北上市視察（R1.11） 蓑口氏：遠野市役所及び㈱ネクストコモンズとの意見交換（R1.11） 本村氏：県内企業訪問（AIを活用した製品開発、サービス提供の可能性）（R2.1） 本村氏・橋本氏：県立大学（AIコンソーシアムと県立大学ソフトウェア情報学部の連携の可能性）（R2.1）

３　県民運動及び作業部会

県民運動	部会名【担当機関】	主な活動
ILCなど科学技術の進展への対応	イノベーション推進【県】	○ ﾄﾞﾛｰﾝ物流の社会実装に向けた実証実験を、令和2年2月に岩泉町で実施 22回飛行し、18回成功 ※配送した商品 ： 岩泉ヨーグルト、龍泉洞の化粧水など（約1kg） ○「暮らし×遊び×イノベーション」をテーマにしたワークショップを、令和2年2月に紫波町で開催
復興と新たな社会基盤等の活用	かけ橋【県】	○ 復興支援プロジェクト「いわて三陸復興のかけ橋」を展開 ○ 復興支援ポータルサイト等のアクセス数は、目標220,000アクセスに対し、324,164アクセスを記録 ○ 復興支援マッチングは、目標15件に対し、16件のマッチングが成立 ○「岩手かけ橋共創ネットワーク会議」を９月に東京で開催
	いわて復興未来塾【県】	○ いわて復興未来塾を2回開催 ・第1回　R元.11.16　会場 ： 陸前高田市 テーマ「思いを伝え、つなぐ。未来のための伝承・発信」 約150名参加 ・第2回　R2.1.26　会場 ： 盛岡市 テーマ「間もなく9年、復興のこれから」 約120名参加
	新しい三陸創造【県】 ※令和元年度で活動終了	○ 三陸防災復興ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ2019の成功に向けた機運醸成及び周知活動 来場者数 ： 約18万5千人（目標 約15万人） 経済波及効果 ： 約35.9億円 ○ ﾗｸﾞﾋﾞｰﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ2019™釜石開催の成功に向けた機運醸成及び周知活動 入場者数 ： 14,025人（9/25 フィジー 対 ウルグアイ）
	復興教育【岩手大】	○「いわての師匠」派遣事業による講師派遣を実施 事業の周知方法の改善等により、前年度から派遣件数が大幅増 H30 派遣件数1件（86名参加） → R元 派遣件数13件（2,244名参加） ○ 学校側のニーズの変化を踏まえ、「いわての師匠」派遣事業の実施要項の改訂

県民運動	部会名【担当機関】	主な活動
人口減少下における地域の活力維持	ふるさといわて創造【岩手大】 ※令和元年度で活動終了	○ R元.11.23、岩手産業文化センターを会場に「ふるさと発見！大交流会 in Iwate2019」を開催 151の出展団体と1,463名の来場者が交流、来場者の満足度 96.8% ○ 地域志向型インターンシップを7地域で開催、計 56名参加
	医療福祉連携【県立大】	○ 岩泉町安家地区（539人・高齢化率57.9%）において、全世帯に配布されている電話型IP端末に、安否確認システムを実装し社会実験を実施 ○ AIスピーカーによる服薬支援見守りの開発 ○「遠隔通いの場ロボット Kadaru-Be」の社会実験を実施
	子育て支援【県立大】	○ ワーク・ライフ・バランス推進セミナーを実施 様々な事例を交えながらパネルディスカッションを行い、好評を得た ○「子育て支援環境が整った企業に特化したインターンシップ」を実施 （参加企業） 自分の職場の状況を知る良い機会になり、子育て支援環境の整った企業としての周知につながった （参加者） 働くこと自体の捉え直しや、子育てについて考えるきっかけになった

４　その他

・活動の企画・調整を担う組織として、企画委員会を３回開催。

議案第２号

令和２年度活動計画（案）について

いわて未来づくり機構 会則第７の３（１）により、令和２年度活動計画（案）について、次の通り承認を求める。

令和２年 11 月 12 日

いわて未来づくり機構 令和2年度活動計画（案）

目標

【第3フェーズ目標（2018年度～2022年度）】

科学技術の進展と整備が進む社会基盤を生かした、人口減少に負けない地域づくり
～県民の幸福を守り、育てるために～

県民運動

ILCなど科学技術の進展への対応	復興と新たな社会基盤等の活用	人口減少下における地域の活力維持

作業部会

	イノベーション推進	かけ橋	いわて復興未来塾	復興教育	医療福祉連携	子育て支援
活動方針	岩手型イノベーションの推進	復興支援プロジェクト「いわて三陸復興のかけ橋」の推進	復興や地域づくりの担い手の育成及び人材のネットワークづくり	いわての復興教育プログラムの推進支援	地域包括ケアにおける情報通信技術（AI IoT）と社会技術の融合	母と子だけでなく家族全体を支える岩手版ネウボラの開発
主な活動	◆ドローン物流の社会実装に向けた実証実験の実施 ◆未来技術の活用に関するワークショップの開催や全国事例の調査	◆復興支援マッチングの推進 ◆復興関連情報の発信 ◆復興支援ネットワークの強化	◆復興の担い手となる人づくりの観点から、いわて復興未来塾を年３回開催（新型コロナウイルス感染防止対策の徹底、リモート等を活用）	◆復興教育の講師を派遣する「いわての師匠」派遣事業の推進	◆ICTを活用した高齢者の見守りシステムの普及促進 ◆AIスピーカーなどAI・IoTを活用した生活支援策の開発と実装 ◆通いの場Kadaru-Beの実装	◆自治体における子育て支援の取組についての調査 ◆令和２年度 ワーク・ライフ・バランス推進セミナーの開催

情報発信

活動をより効果的に展開していくため、積極的に情報発信を行う。

① 会員団体の総会等を利用した団体構成員等に対する機構の取組内容の周知
② 機構だより、電子メール等を利用した会員向け情報提供（随時）
③ 機構ホームページからの一般向け情報発信
④ 県民の理解増進を図るため、マスコミへの情報提供の強化

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰボード

北上川バレープロジェクトの推進に向けた意見、提言をいただき、県と連携してプロジェクトを推進

① 産業分野・生活分野への第４次産業革命技術の導入の促進に向けた助言
② 高度技術人材の育成に向けた助言

スケジュール

主要行事	概　要
第1回ラウンドテーブル ※開催済 時期：7/10 15:30～17:30 会場：アートホテル盛岡 進行：（県）八重樫企画委員	・ラウンドテーブルメンバーの承認、共同代表の互選 ・講演「新型コロナウイルス感染防止対策について」 講師：一般社団法人岩手県医師会 会長 小原 紀彰 氏 講演「新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた今後の地域医療のあり方」 講師：学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰 氏 ・ディスカッション「新型コロナウイルス感染症に係る今後の展望」 ・「いのちと健康を守り、生活となりわいと学びを支える岩手宣言」の採択
総会 時期：11/12 9:45～10:05 議長：（経済同友会）高橋共同代表 進行：（県立大）堀江企画委員長	・令和元年度活動実績及び令和2年度活動計画の審議
第2回ラウンドテーブル 時期：11/12 10:05～12:00 会場：アートホテル盛岡 進行：（岩手大）藤代企画委員	テーマ「地域を牽引する産学官連携及び高等教育の将来像」 ・講演 講師：経済産業省 東北経済産業局長 渡邉 政嘉 氏 セルスペクト株式会社 代表取締役兼CEO 岩渕 拓也 氏 ・ディスカッション 議題① 「本県における今後の産学官連携のあり方について」 議題② 「県内高等教育機関の将来像について」
第3回ラウンドテーブル 時期：2/5 14:00～16:00 会場：盛岡市内 進行：未定	・講演及びディスカッション （その時点における県政の重要課題に応じテーマを決定）

いわて未来づくり機構　会則

（名称）

第１　本組織は、「いわて未来づくり機構（以下「機構」という。）」という。

（目的）

第２　機構は､岩手県内で活動する組織が智慧と行動力を結集するためのネットワークを構築し、岩手県の地域社会の総合的な発展に向けて県民力を挙げオール岩手で取り組み、具体的に実践していくことを目的とする。

（構成）

第３　機構は、第２の設置目的に賛同し、事務局に入会の意思を表示した岩手県内で活動する組織（以下「会員」という。）をもって構成する。

（活動事項）

第４　機構は、第２の目的を達成するために次の活動を行う。

(1) 岩手県の地域社会の総合的な発展に資する方策の検討及び実践

(2) (1)に係る情報発信

(3) 会員相互及びラウンドテーブルと会員の意見交換及び情報共有

(4) (1)～(3)を行うためのネットワークづくり

(5) その他、機構の目的を達成するために必要な事項の検討及び実践

（ラウンドテーブル）

第５　機構にラウンドテーブルを置く。

２　ラウンドテーブルメンバーの変更は､ラウンドテーブルメンバーの過半数の承認を得て行う。

３　ラウンドテーブルは、共同代表が必要と認めたとき開催する。

４　ラウンドテーブルは、岩手県の地域社会の総合的な発展のために克服すべき重要な課題について意見を交換し、提言を行う。

５　必要に応じ、学識経験者等にラウンドテーブルへの出席を求めることができる。

（共同代表）

第６　機構に共同代表を若干名置く。

２　共同代表は、ラウンドテーブルメンバーの中から互選する。

３　共同代表は、それぞれが機構を代表し、機構の業務を統括する。

４　共同代表の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

（総会）

第７　総会は、共同代表が招集する。

２　総会の議長は、共同代表が務める。

３　総会は、次の事項を議決する。

(1) 事業計画の決定及び変更

(2) 事業報告の承認

(3) 会則の制定及び改正

(4) その他必要と認められる事項

（企画委員会）

第８　機構に、活動の企画・調整を担う企画委員会を置く。

２　企画委員会は、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。

３　企画委員会に委員長を置く。

４　委員長は、企画委員の中から互選する。

５　企画委員会の運営については、別に定める。

（アドバイザリーボード）

第９　機構に、特定の課題に対し提言を行うアドバイザリーボードを置くことができる。

２　アドバイザリーボードの設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。

３　アドバイザリーボードは、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。

４　アドバイザリーボードの運営については、別に定める。

（作業部会）

第10　機構に、特定の課題に関する連携・協働の方針の策定、協働事業の企画立案及び協働事業の実践並びに必要な調査研究等を行うため、作業部会を置くことができる。

２　作業部会の設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。

３　作業部会は、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。

４　作業部会の運営については、別に定める。

（会費）

第11　機構の会費は、無料とする。ただし、一部事業の実施に伴い、参加負担金等を徴収することができる。

（事務局）

第12　機構の事務を処理するため、事務局を置く。

２　事務局は、ラウンドテーブルメンバーが協力して運営する。

（その他）

第13　この会則に定めるもののほか、機構の運営に関し、必要な事項は、共同代表が別に定める。

附則　この会則は、平成20年４月24日から施行する。

附則　この会則は、平成22年５月25日から施行する。

附則　この会則は、平成23年７月19日から施行する。

附則　この会則は、令和元年７月８日から施行する。

参考資料

いわて未来づくり機構 作業部会
令和元年度実績報告及び令和２年度活動計画

いわて未来づくり機構 医療福祉連携作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：　地域包括ケアにおける情報通信技術（AI・IoT含む）と社会技術の融合

座長：　小川晃子　　　　担当団体：岩手県立大学

報告要旨

本作業部会では、医療・福祉が連携した地域包括ケアに資するために、**AI・IoTを含む情報通信技術と、地域の見守り体制や高齢者の情報リテラシー向上等の社会技術を融合したモデル開発と実証**に取り組んできた。**この取り組みは、新型コロナウィルス感染予防が必要な現状で、高齢者の孤立化や虚弱化を防ぐ取り組みに直結するものである。**

その代表的な取り組みは、以下の3点である。

令和元年度は、高齢者の能動的な安否確認システム***「お元気発信」を岩泉町の電話型ＩＰ端末に実装***し社会実験を行い、今年度は全町普及に向けての実装に取り組んでいる。

また、***AIスピーカーを活用した服薬支援見守り***の社会実験を行っており、次年度以降の過疎化・高齢化が進展する北いわて等の地域での実装に向けて取り組み中である。

さらに、介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会岩手県協議会の一員として「***遠隔通いの場ロボットKadaru-Be***」の社会実験を令和元年に主担当した。令和2年度は、高齢者がテレビのチャンネルのように簡単な操作で利用できるシステムを活用し、いきいきサロンや高齢者大学を遠隔で行う社会実験を滝沢市で11月に実施する。その成果をもとに行政・社協等の理解を得て岩手県内での早急な実装へと進める予定である。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

日付	内容
令和元年7月27日	日本社会福祉学会東北ブロック大会　基調講演・シンポジウム「高齢者の孤立防止とコミュニティづくり」岩手県立大学で運営・報告
令和元年10月6日（準備のための作業部会5月25日、7月26日）	日本遠隔医療学会学術大会（アイーナ）ワークショップ「ICT活用見守りの地域包括ケアにおける効果と課題」運営・報告
令和2年2月22日（準備のための作業部会1月31日、2月17日）	講演・事例報告・パネルディスカッション「服薬支援見守りを考える―地域包括ケアにおける活用」花巻なはんプラザ大ホールにて運営・報告【別添チラシ参照】
令和2年3月28日	重度障害児のためのコミュニケーション支援の研修会を島根大学伊藤史人氏と共催する予定であったがコロナ禍で延期した

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和元年度活動計画	令和元年度活動状況・成果・課題
(1)岩手県と連携した孤立防止とコミュニティづくり **①「北いわてにおける生活支援型コミュニティづくり―中山間地域の持続可能な生活を実現する新たな社会技術の確立」（政策地域部地域振興室県北沿岸振興課等と連携）**	※いずれも岩手県立大学地域協働型研究Ⅱ採択 岩手町豊岡地区（33世帯・高齢化率68.8%）の20世帯でお元気発信を導入し見守り体制を構築した。 岩泉町安家地区（539人・高齢化率57.9%）において、全世帯に配布されている電話型ＩＰ端末に実装し社会実験。【スライド①】2月の町長施政演説において「安家の結果をもって全町的取り組みを検討」。

②「岩手県における重層的見守りシステムの検討と構築」（岩手県保健福祉部地域福祉課等との連携） **(2)アクションリサーチの継続的展開**	②10年間のお元気発信と重層的見守りの成果をもとに、新たな見守り体制づくりについて検討を開始。
①AI・IoTを活用した医療・福祉連携	・AIスピーカーによる服薬支援見守りを開発【スライド②】　・コミュニケーションロボットによる見守り実証実験【スライド③】 ・岩手県介護ロボットニーズシーズ連携協調協議会の一員として遠隔通いの場Kadaru－Be社会実験【スライド④】
②高齢者の終活支援と認知症とともに暮らせるまちづくり	・滝沢市等で当事者ネットワークを形成し講演活動【スライド⑤】 ・「注文を間違えるカフェ（仮称）継続的取り組みへの検証を開始
③重度障害者のコミュニケーション支援の医療・福祉・教育現場への普及促進	③重度障害児のコミュニケーション支援に関する研修会開催を予定していたが、コロナ禍により延期

３．今後の活動方針・予定

(1)「新しい生活様式」における高齢者の孤立防止と虚弱化防止のためのICT活用促進

①高齢者の能動的安否確認システム「お元気発信」の普及促進

コロナ禍で民生委員等の対面見守りが困難な状況において、電話だけで安否を確実に確認できる「お元気発信」の有効性は高い。

岩手県ふるさと振興部・保健福祉部、及び岩手県社会福祉協議会等とのこれまでの取り組みを継続しつつ、ICTを活用した見守りシステムと高齢者のリテラシー支援策を促進する。

令和2年7月31日には岩手県社会福祉協議会において市町村社会福祉協議会に対する研修を行い、11月20日には市町村社協へのワークショップを実施する予定である。

岩泉町でのIP電話活用見守りは安家地区の、岩手町でのお元気発信は豊岡地区の、それぞれの令和元年からの社会実験成果を全町的普及へとつなげる予定である。

②AI・IoTを活用した生活支援策の開発と実装

AIスピーカーを活用した服薬支援見守りの社会実験を令和2年度10月に実施しており、この成果をもとに次年度以降に高齢者・過疎化が進展する北いわて等での生活支援策の実装へと進める予定である。

②遠隔通いの場Kadaru-Beの実装

高齢者が交流や体操・生きがいづくり活動を自宅で継続できるよう、令和元年度の実証実験成果を活かして、遠隔通いの場を実装する。令和2年11月には滝沢市で、テレビチャンネルの操舵程度で活用できるシステムを用いて、いきいきサロンや高齢者大学の実証実験を行う。その成果をもとに、自治体や社協へ訴求し、次年度以降の実装へと進める予定である。

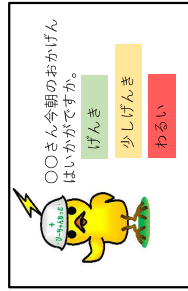
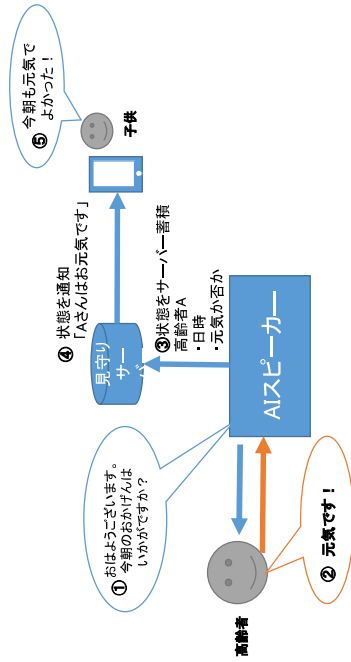
(2) 認知症とともに暮らせるまちづくり

令和2年7月8日に岩手県立大学において認知症に関するまちづくりへの認知等当事者参加を訴求するイベントを開催した。【別添チラシ参照】。その際にも話題としたが、岩手県立大学に隣接するカフェ（パンテック）において、認知症当事者が活動する「注文を間違えるカフェ

（仮称）」を1産学市民連携で実現できるよう体制づくりをしており、令和2年12月に試行をし、その後は継続的に展開できるよう検討していく。
令和2年9月28日は、もりおか女性センター主催の講演会において「認知症とジェンダー（仮称）」の講演を当事者と家族の時計屋一座で行い、新たなネットワーク形成を図りつつある。
今後は認知症のVR体験等も取り入れ、市民理解を促進していく。
(3) 重度障害者のコミュニケーション支援の医療・福祉・教育現場への普及促進
令和2年3月に予定し延期した重度障害児に対するコミュニケーション支援策の研修会を令和2年度後半に開催する予定である。

①岩泉町のぴーちゃんねっと

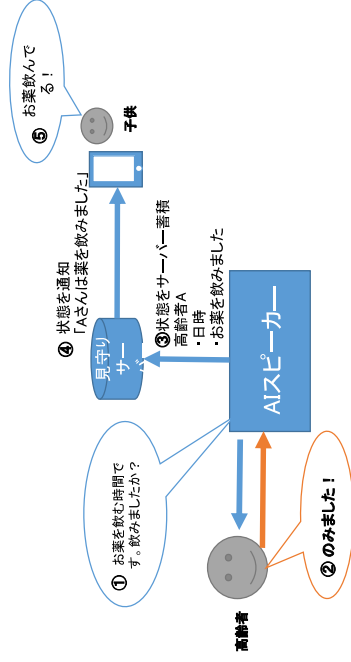
岩手県政策地域部・岩泉町協働研究：社会実験中

- 岩泉町安家地区（人口539人、高齢化率57.9%、独居　高齢者89人）台風10号豪雨被害で38%が全壊・半壊。本年度7月に仮設住宅から災害公営住宅に移転。
- 岩泉町では地域情報通信基盤整備事業により整備した「*ぴいちゃんねっと*」が町内全戸に導入されている
- 今回はこれを活用し、独居高齢者が毎朝、能動的に「お元気発信」する。
- 今後は、生活支援ニーズの確認や調整、冬季の遠隔サロン活動、コミュニティづくりの活用案を提言していく。

岩手県県北・沿岸振興室【台風災害復旧復興推進担当】
安心のリレー………
ぴーちゃんねっと「おげんき発信」
今日も元気で　か

②AIスピーカーを活用した見守り

㈱カルティブ共同研究：開発・社会実験企画中

AIスピーカーを活用した見守り

共同研究：開発・社会実験企画中

③ロボット活用見守りへ

ソニーモバイルコミュニケーションズ㈱共同研究

④遠隔通いの場 Kadaru-Be

岩手県介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会
委員としてFS 2020年 10月～12月社会実験

2020年（令和2年）1月4日（土曜日）

離れていても 高齢者ら絆

ICTで集いの場

県内プロジェクト

弾む会話、一緒に体操

ICTを活用した通いの場のイメージ

ワンチーム

⑤時計屋カフェ一座による認知症当事者の経験的語り

当事者ら思い、切々と

滝沢市の「時計屋カフェ」

滝沢市で月2回開かれている認知症カフェ「時計屋カフェ」。壁いっぱいに飾られた時計が、時を刻む。「皆が心地よく、昭和を思い返し懐かしくなる」と参加者。事例発表では、ここで出会った4人がそれぞれの思いと活動の展望を語った。

事例発表

「できること」積極的に見つけて

滝沢市認知症の家族の会代表
桜野 正之さん(71)

カフェでの出会い、ワクワクに発展

正一さんの妻で県立大学社会福祉学部教授
坂庭 晃子さん(65)
盛岡市

憩い集える場の開設「恩返し」

妻の死を機にカフェを主宰する
和田 与四郎さん(72)
滝沢市

自ら公表、周囲から力もらう

2年半前にアルツハイマー型認知症と診断された
坂庭 正一さん(71)
盛岡市

服薬支援見守りを考える

―地域包括ケアにおける活用―

薬の飲み忘れを防ぎ、見守りと異変の早期発見の機能を持つICT（情報通信技術）を活用した「服薬支援見守り」の取組みから、新たな地域包括ケアのあり方を考えます。

忘れでらった。
今がら飲むがら！

2020年
2月22日㊏ 13:00～16:00（12:30開場）

参加無料

予約不要（100名まで入場可）

会場：なはんプラザ大ホール（JR花巻駅より徒歩1分）
車の場合は、「なはんプラザ」の前にある花巻駅南駐車場（第1・第2）をご使用ください。
（1時間まで無料・3時間まで100円）

第1部 基調講演

「今さら聞けないお薬の話：この薬いつまで続けるんですか？」

上嶋健治氏（京都大学医学部附属病院　相談支援センター長）

第2部 事例報告

「遠野市における服薬支援見守り」

山口　淳氏（遠野市国民健康保険中央診療所　医師）
鈴木亮二氏（東北大学医学系研究科　助教）

「岩手県におけるICT活用医療福祉連携」

小川晃子氏（岩手県立大学社会福祉学部　教授）

※休憩時間に「見守り機能付き服薬支援装置」㈱石神製作所（花巻市）のデモをご覧ください。

第3部 パネルディスカッション

「多職種連携とICT活用見守り―服薬支援を中心として」

医師、薬剤師、ケアマネジャー、社会福祉協議会等の関係者が出席

【主催】岩手県立大学（戦略的研究プロジェクト「自分らしく生ききる」代表 小川晃子）
　　　日本遠隔医療学会・在宅見守り支援分科会
【後援】岩手県／花巻市／遠野市／花巻市医師会／花巻市歯科医師会／花巻市薬剤師会／岩手県社会福祉協議会
　　　岩手県民生児童委員協議会／岩手県社会福祉士会／ケアマネ協会
　　　難病連・認知症の人と家族の会岩手県支部

お問合せ：岩手県立大学　見守りプロジェクト室
　　（メール）aki@iwate-pu.ac.jp（電話・ファクシミリ）019-694-3343

コロナ自粛で巣ごもりをしていると、不安感が高くなりませんでしたか。私たちは誰しも人とのつながりに支えられて生きています。認知症になっても、仲間や地域とのつながりがあれば自分らしく生きていくことができます。滝沢市内で進めてきた地域連携による取り組みをさらに発展させるために、認知症当事者とともに考える機会をつくります。

時計屋カフェ　2周年記念茶会

日時：令和2年7月8日（水）10:00～12:00
場所：和田時計店（滝沢市大崎94－69）
参加費:200円　先着15名　予約不要・マスク必着

若年性認知症の妻を亡くした後、和田與四郎さんが月2回（第1・3水曜午前）開催してきた「時計屋カフェ」は、2周年を迎えます。柱時計の時を告げる音に癒されながら、お茶を飲むひと時をもちませんか。

時計屋カフェ2周年記念

認知症の本人と進めるまちづくり

＝＝注文を間違えるカフェ（仮称）を実現するにあたって＝＝

【主催】岩手県立大学地域協働研究　注文を間違えるカフェ（仮称）運営検討プロジェクト
【共催】いわて未来づくり機構医療福祉連携作業部会／岩手県医療福祉情報化コンソーシアム
【後援（予定）】岩手県／岩手県社会福祉協議会／岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会／滝沢市／滝沢市社会福祉協議会／岩手西北医師会認知症支援地域ネットワーク／認知症の人と家族の会岩手県支部／もりおか認知症カフェ連絡協議会／川前地区高齢者支援連絡会

丹野智文氏（認知症当事者）講演会等

日時：令和2年7月8日（水）13:00～14:30
場所：岩手県立大学　共通講義棟　301講義室
（滝沢市巣子152-52　駐車場は校舎周辺の「一般」を利用）
参加費：無料　先着80名（人数超過の場合は別会場で映像視聴可能）　予約不要・マスク必着

13:05～13:35 丹野智文氏講演
13:35～13:50　時計屋カフェ2年の歩み紹介
13:50～14:30　パネルディスカッション
「注文を間違えるカフェ（仮称）実現に向けて」

丹野智文（たんの・ともふみ）氏　プロフィール
1974年宮城県生まれ。トヨタ系列自動車販売会社でトップセールスマンとして活躍していた2013年、39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断を受ける。2015年から認知症の人が不安を持つ当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開いている。主著：「笑顔で生きる―認知症とともに」（文芸春秋）

問い合わせ先：岩手県立大学　特命教授　小川晃子
aki@iwate-pu.ac.jp　Tel／Fax　019-694-3343

いわて未来づくり機構　かけ橋作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：「いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト」の推進

座長：高橋　則仁　　　　　担当機関：岩手県

報告要旨

プロジェクト概要　　東日本大震災津波からの復旧・復興には、行政はもとより、広く民間等の取組も重要であることから、平成23年から、被災地が抱える課題と県内外からの支援の提案をマッチングさせ、行政や民間、ＮＰＯ等のアイデア、行動力を結集させた取組を展開。

- 被災地の課題は、一過性のものから、産業やコミュニティ再生等の**中長期的な課題に移行してきている。**震災の風化が進み、**県外の一部の企業・団体では、復興支援に加えて、**ＣＳＲ（企業の社会的責任）や企業の利益も目指すＣＳＶ（共通価値の創造）の活動を展開している。
- 令和元年度は、短期的な寄付などの支援マッチングのほか、新商品開発やコミュニティ支援等の分野における協働事業の復興支援マッチングが成立した。
- **復興支援マッチングについて、これまで委託事業により実施してきたが、本年度で委託が終了となる**ことから、これまで**関係性を築いた県内外の企業との繋がりを維持しながら来年度以降の取組について検討する。**

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和元年9月27日　　第13回作業部会開催
- かけ橋作業部会の活動状況について
- 当事業の来年度の方向性について

令和2年3月10日　　第14回作業部会開催
- 令和元年度活動実績(案)
- 令和2年度活動計画(案)について

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和元年度事業計画	令和元年度事業実績･成果
(1) 復興支援マッチング 短期、中長期の支援について以下の２系統の体制で対応。 ① 短期的支援 物資供与やボランティア派遣等の支援マッチングは、一定のニーズがあることから継続して対応。 ② 中長期的支援 産業再生やコミュニティ再生等の支援マッチングの要請に重点的に対応。 **【目標：支援件数　15件】**	① 「いわて三陸復興のかけ橋推進協議会」に配置する復興支援員を中心に実施し、４件をマッチング。 ② 業務委託先の（一社）ＲＣＦを中心に、被災地の課題やニーズを把握し、首都圏の企業等からのヒアリングを実施した結果、**新商品開発やコミュニティ支援等の分野で計12件**の復興支援マッチングに至る。 **【実績：16件】**
(2) 復興関連情報の発信 被災地の復興の進捗状況や様々な活動を復興支援ポータルサイト「いわて三陸復興のかけ橋」やツイッター、フェイスブック等により総合的に情報発信。 【目標：ポータルサイト等アクセス数 220,000アクセス】	ポータルサイトやSNS等を活用し、被災地の様々な復興関連情報を発信。特に三陸防災復興プロジェクト2019やRWC2019釜石開催といった大規模イベントの現地取材を実施し、三陸地域の魅力の発信に努めた。 【実績：324,164アクセス】
(3) 復興支援ネットワークの強化 沿岸被災地の現状やニーズの紹介と、支援企業の活動について情報交換を行うため、都内で「岩手かけ橋共創ネットワーク会議」を開催し、県内外のネットワークを構築・強化する。 【目標：ネットワーク構築企業数　90社】 メーリングリスト登録企業数	首都圏企業･団体の担当者を対象とし、９月に東京都内で実施し、沿岸被災地の現状やニーズの紹介のほか、支援企業の活動について情報交換を行った。 そのほか、メーリングリストを活用し、登録されている企業に対してかけ橋事業の再周知やマッチング事例の紹介を行うなどネットワークの維持・強化に努めた。 【実績：91社】

事業課題

首都圏では、東日本大震災津波の発災から10年を経過し、企業の支援の意向もビジネス志向となってきており、復興の段階が移行する中で、被災地の課題も変化してきている。

復興・創生期間の終了も踏まえ、来年度以降の取組について検討しながら、これらのニーズに適切に対応していくことが求められている。

① 首都圏の企業のシーズと被災地の団体のニーズ双方の的確な把握

② 当プロジェクトとその成果の情報発信

③ これまで関係を構築した県内外の企業・団体との関係性の継続

３．今後の活動方針・予定

これまで継続的に協働事業を展開いただいている企業や、復興支援に御協力いただいている企業との継続的な繋がりを維持していくため、復興支援マッチングに注力しながら、**来年度以降の取組について検討する。**

① **復興支援マッチング**

これまで業務委託により推進していたが、**今年度で委託が終了することから、継続的に復興支援の取組を行っていただいている企業との繋がりを維持できるよう、関係づくりを進める。**

・ 産業再生等に係る支援マッチングについては、連携や協働に意欲のある企業を中心に、市町村や団体との共同事業を推進実施いただける企業へのヒアリングを推進する。

・ 物資供与や寄付などの支援マッチングは、いわて三陸復興のかけ橋推進協議会を中心に対応する。

【目標：支援件数　15件　実績（９月末現在）：７件】

② **復興関連情報の発信**

被災地の復興状況及び支援ニーズを伝えるため、復興支援ポータルサイト「いわて三陸復興のかけ橋」やＳＮＳ等により総合的に情報発信を行う。

※ポータルサイトは12月でサポート期限終了のため閉鎖し、県ホームページへ移行

【目標：ポータルサイト等アクセス数　220,000アクセス
実績（９月末現在）：116,603アクセス】

③ **復興支援ネットワークの強化**

首都圏企業と沿岸市町村や団体との継続的なマッチングによる速やかな復興支援の実現及び事業の継続や展開を目指した、県内外のネットワークの構築・強化。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、首都圏企業との意見交換は全てZoomなどのオンラインツールを使用して実施

【目標：ネットワーク組織会員企業・団体数　90社】

参考資料１：令和元年度取組事例

１　復興支援マッチング

【取組事例①】日本ゼトック㈱

１　釜石市の藤勇醸造㈱とのマッチングにより、同社の甘糀を使った化粧品「AsunAmoon」を共同開発

２　同社はこれまでに、岩泉ホールディングス㈱、酔仙酒造㈱とそれぞれ化粧品の共同開発を実施

１　藤勇醸造㈱の商品発表会

２　岩泉ホールディングス㈱との共同開発商品

【取組事例②】ダイヤゴム㈱

群馬県のダイヤゴム㈱から、子ども用ゴム手袋の寄贈について提案があり、宮古以南の６市町村 28 団体へ合計 1,720 双のゴム手袋を寄贈いただいた

越喜来こども園　平田子ども園　かまいしこども園

【取組事例③】アサヒグループホールディングス㈱

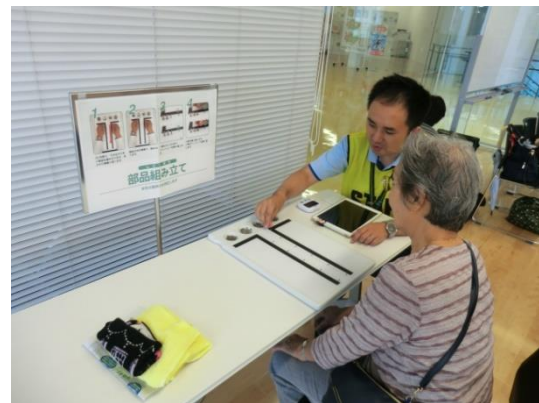
1　機構と同社が平成 26 年 12 月に締結したアライアンスに基づき、「いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト」の一環として、被災市町村の郷土芸能の保存・発展に寄与するコミュニティ活動を支援する「アサヒグループ・コミュニティ助成事業」の実施に全面協力

2　令和元年度は沿岸 12 市町村 28 団体に 11,350 万円の助成を実施

【目録贈呈式（令和元年８月 28 日）】

【取組事例④】㈱リクルートホールディングス

1　沿岸局とのマッチングにより、平成 29 年度から潜在労働力の掘り起こしに向けた取組として、地域住民を対象に体力や判断力等を測定し、仕事の適性診断を行って就業支援につなげる「からだ測定会」を継続して開催

2　令和元年度は、陸前高田市、釜石市、宮古市の３市で実施

【からだ測定会の様子】

２　復興関連情報の発信

【情報発信①】復興支援ポータルサイト、ＳＮＳによる情報発信

【情報発信②】ポータルサイト掲載　復興トピックス記事例①

復興トピックス

2019年04月15日

【建物ガイド】<釜石市>　いのちをつなぐ未来館

登録番号	TP190415002
市町村名	釜石市
詳細記事	平成31年3月23日に、東日本大震災での出来事を伝え、子どもたちの防災学習の拠点となる施設として、釜石市鵜住居地区に「いのちをつなぐ未来館」がオープンしました。 未来館には、(株)NTTドコモ及び国立大学法人岩手大学のご協力をいただき、ドコモ独自のデジタル技術と、岩手大学の知見を活用した体験型展示「津波の仕組み学習するシステム」を設置しています。 このシステムを用いて防災学習の充実を図るとともに、ドコモ・岩手大学・釜石市の三者が連携して、よりよい防災学習のための教材として研究・改良を進めていきます。 ■展示室 東日本大震災での出来事と教訓を伝えるとともに、釜石市の子どもたちが取り組んだ防災学習について展示するスペース。 ■防災学習室(オープンスペース) 津波発生の体験型展示、企画展、語り部活動、防災学習に関するワークショップなどを行う多目的スペース。 ■資料閲覧室 東日本大震災や防災教育に関する展示などにふれることのできるスペース。 ※団体(10名以上)でご利用される場合は事前申し込み(電話・FAX)が必要です。 【いのちをつなぐ未来館】 岩手県釜石市鵜住居町第16地割72-1 TEL 0193-27-5666 FAX 0193-27-5667 営業時間　9:00～18:00 定休日　毎週水曜 年末年始 入場　無料

【情報発信③】ポータルサイト掲載　復興トピックス記事例②

復興トピックス

2019年11月19日

【動画】陸前高田市内Vol.1（2019年11月13日）

登録番号	TP191119002
市町村名	陸前高田市
詳細記事	東日本大震災で特に甚大な被害を受けた陸前高田市。 今回は同市米崎町から国道45号を通って、2019年9月にオープンした「東日本大震災津波伝承館・TSUNAMIメモリアル」「道の駅高田松原」を目指しました。 道中、国道沿いには震災遺構となった「旧下宿定住促進住宅」や「旧道の駅高田松原・タピック45」の前を通ります。 その後、国道45号と県道141号を結ぶ「シンボルロード」を通り、また米崎町へ戻る様子をリポートしました。 >>>https://www.youtube.com/watch?v=NBjTwPXf_dw&feature=youtu.be （2019年11月13日撮影）
添付ファイル	

３　復興支援ネットワークの強化

【ネットワーク構築事例】岩手かけ橋共創ネットワーク会議の開催

首都圏の企業等と、県及び市町村の担当者等が、意見交換する機会を都内で提供。

企業・自治体のネットワークの強化を図り、発展的なマッチングの実現を目的として開催しているもの。

日　時：令和元年９月３日
場　所：東京都千代田区（Nagatacho GRID）
参加者：17名
主な内容

- 県から「いわて県民計画（2019～2028）」や、県北・沿岸地域の産業の現状、復興道路の整備などについて状況を説明。
- ㈱スリーピークス、陸前高田市、岩手大学三陸水産研究センターから地域の取組を発表。
- その後、「㈱スリーピークス」「陸前高田市」「岩手大学三陸水産研究センター」の３つのブースに分かれ意見交換を実施。

ネットワーク会議の様子

参考資料２：令和２年度復興支援マッチング事例

【取組事例①】みちのくコカ・コーラボトリング㈱

流通課とのマッチングにより、同社が楽天市場内に開設したオンラインショップにおいて、「岩手ぅんめぇ～もん！！グランプリ 2020」最優秀賞受賞商品（西和賀産業公社：西わらび蕎麦）を３万円分買取のうえ販売

表彰式の様子

西和賀産業公社（西わらび蕎麦）

【取組事例②】ブラザー工業㈱

三陸鉄道とのマッチングにより、約 60 万円を広告費として寄付いただいた

ブラザー工業㈱ヘッドマーク

車内掲示

いわて未来づくり機構 新しい三陸創造作業部会の実績報告

テーマ：大規模イベントを契機とした三陸地域の持続的な振興

座長：高橋　則仁　　　　　担当団体：岩手県

報告要旨

　三陸防災復興プロジェクト2019及びラグビーワールドカップ2019™釜石開催を、東日本大震災津波からの復興に取り組む地域の姿や、支援に対する感謝の気持ちを伝え、多様な交流を活発化させる契機と捉え、様々な主体の参画・連携の下、開催機運の醸成及び周知活動を展開し、各イベントの成功に向けて取り組むとともに、三陸地域の多様な魅力を国内外に発信してきたところ。

　本部会は、大型イベントを契機とした持続的な三陸地域の振興を目的に設置された部会であり、部会設置時に、終期が設定されていることから、令和元年度をもって部会としての活動を終了するものである。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）	
令和元年５月17日	新しい三陸創造作業部会開催 ・活動計画 ・各イベント等の取組状況 ・三陸地域の持続的な振興に向けて

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
令和元年度活動計画	**令和元年度活動状況・成果・課題**
（1）三陸防災復興プロジェクト2019の成功に向けた取組（三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会の取組）	○開催実績 　開催期間：２０１９年６月１日～８月７日　　68日間 　開催場所：岩手県沿岸部の13市町村 　来場者数：約１８万５千人（目標　約１５万人） 　経済波及効果：約３５．９億円 ○復興の取組の発信 　オープニングセレモニー・防災復興シンポジウムを通じ、多様な主体のつながりにより、岩手の復興が世界そして未来に広がっていく形を共有し、いわて絆まつり2019in宮古の開催により、復興支援への感謝と復興に向けた強い決意、オール岩手で防災復興に取り組む姿を発信 ○三陸の魅力の発信 　三陸ジオパークの普及啓発・活用とともに復興の状況を発信。海外や国内の著名シェフが参加した食の国際会議などによる世界に誇れる食のまちの形成に向け大きな弾み
（2）ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向けた取組（ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会の取組）	○開催実績（岩手・釜石） 　開催期間：９月25日　　※10月13日⇒台風第19号により中止 　開催場所：釜石鵜住居復興スタジアム 　入場者数：14,025人　※9/25フィジー代表 対 ウルグアイ代表 　　　　　（ファンゾーン入場者　9/25　5,323人）

	海外での反響：ワールドラグビーの年間表彰式で、ラグビーの価値を社会に伝えることに貢献した個人や団体に贈られる「キャラクター（品格）賞」を受賞 ○賑わいの創出 機運醸成イベントの実施や特設ホームページやガイドブック等による積極的な情報発信 ○受入態勢の構築 ファンゾーンでのパブリックビューイングやステージイベント実施のほか、飲食ブース設置や大会公式グッズの販売 ○円滑な輸送及び安全安心の確保 交通輸送実施計画等に基づき運用方法等を定めたマニュアルの作成、大会本番と同様の環境で交通輸送、警備、防災及び医療救護のテストを実施
(３)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成等の取組	○機運醸成イベントの実施 旧国立競技場炬火台の常設・巡回展示や「復興のモニュメント」制作に向けたワークショップ実施 ○ホストタウン登録、交流事業の取組支援 復興「ありがとう」ホストタウンの登録（沿岸では８市町村）や、ホストタウンが実施する各種事業の取組支援 ○「復興の火」展示 オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した火を「復興の火」として、東日本大震災津波の被災３県（岩手県・宮城県・福島県）で順次展示。 【岩手県の開催実績】 実施期間：令和２年３月22日(日)～23日(月) 展示場所： ①三陸鉄道及びＳＬ銀河車内 ②宮古、陸中山田、大槌、釜石、上有住、遠野の各駅 ③花巻なはんプラザ、大船渡市防災観光交流センター 来場者数：【２日間】5,300人（3/22　3,700人、3/23 1,600人）

いわて未来づくり機構 復興教育作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：　復興を担う人材の育成

座長：田代　高章　　　　担当団体：岩手大学

報告要旨

本作業部会では、「いわての復興教育プログラム」に基づいた「いわての師匠」派遣事業を平成26年度から実施している。

「いわての復興教育プログラム」の第３版の改訂や「いわての師匠」派遣事業の開始から５年が経過したことに伴い、岩手県教育委員会と協議しながら、より利便性を高めるため実施要項を改正し、周知方法も見直すこととした。令和元年度は、潜在的なニーズを掘り起こし、派遣実施件数を増加させることを目的として、以下について重点的に取り組んだ。

○　岩手県教育委員会の協力のもと、学校関係者が集まる会議（岩手県指導主事会議、いわての復興教育・防災教育研修講座）等で実施要項等を配布するなど、周知活動を改善。

○　「いわての師匠」派遣事業開始から５年が経過し、学校側のニーズも変化してきたことから、実施要項等を各学校の教員が活用しやすいよう、岩手県教育委員会からのアドバイスを得ながら、見直しを実施。

○　実施要項の見直しと併せ、講師の派遣に積極的な機関への再協力を依頼。
その結果、平成30年度の派遣件数１件（86名参加）から、令和元年度の派遣件数が13件（2,244名参加）と派遣件数が大幅に増加。

○　実施要項の改訂版を令和２年６月に作成し、県内小中高等学校等へ配布。現時点で昨年度とほぼ同様の依頼件数（12件）となっており、新型コロナの影響もあり、依頼目的が多様化している。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）	
平成31年４月26日	第１回復興教育作業部会 ・「いわての師匠」派遣事業について （実施要項、派遣リストの見直しに関する協議）
令和２年１月９日	第２回復興教育作業部会 ・「いわての師匠」派遣事業について （実施要項改訂案に関する意見交換） ※当初計画では、令和元年度中に第３回復興教育作業部会を開催予定だったが、新型コロナウィルス感染拡大の影響等により、令和２年度に延期（令和２年５月に書面会議として開催）。

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
令和元年度活動計画	**令和元年度活動状況・成果・課題**
○　「いわての師匠」派遣事業の実施	○　学校等からの依頼に基づき、13件の講師派遣を実施した（周知方法の改善等により、前年度より派遣件数が大幅に増加）。
○　「いわての師匠」派遣事業内容の見直し、実施要項の改訂	○　岩手県教育委員会からのアドバイスを得ながら、実施内容を見直しのうえ、実施要項の改訂作業

	を実施（新型コロナウィルス感染拡大の影響により改訂版は令和２年６月に完成）。

３．今後の活動方針・予定
改訂した実施要項を基に、引き続き潜在的なニーズを掘り起こし、派遣実施件数を増加させることを目的として、以下の活動を実施する。 ○　令和２年３月付けで改訂した、「『いわての師匠』」派遣事業実施要項」に基づき、講師の派遣・プログラムの提供を継続して実施。 ○　岩手県教育委員会及び各市町村教育委員会の協力のもと、実施要項等を県内小・中・高等学校及び支援学校等に配布するとともに、事務局（岩手大学）のホームページに実施要項及び事例集を公開し、周知を実施。 ○令和２年度中に、以下の時期を目途に作業部会を開催する。 ○　令和２年度中に、以下のとおり作業部会を開催する。 ・第１回（５月、書面開催済）：実施要項改訂版の最終確認、今年度計画の確認。 ・第２回（１１月以降）：今年度活動の中間報告及び次年度以降の改善事項に関する検討等。 ・第３回（２月以降）：今年度活動総括及び次年度への申し送り事項確の確認。 【現在までの実施状況】 ○「いわての師匠」派遣事業による派遣依頼数、実施時期 10月末日時点で８校（延べ12件）より依頼（昨年度実績：13件） 派遣時期は９月～２月（全体的に実施時期が昨年度より遅れている） ○　今年度見られる新たな傾向 ・新型コロナの影響により、社会科見学などの学校行事が減少する中、代替手段として本事業の活用を希望する学校が発生。 ・ビジネスプランやキャリア形成など、防災・復興教育以外のテーマを希望する学校が増加。 ・１校から多様なテーマでの派遣依頼があり、複数の機関でその要望に応えるような事例が発生。 ⇒「いわての復興教育」で掲げる「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方、あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造する」ために必要な「いきる」「かかわる」「そなえる」の３つの教育的価値を高める観点からも、防災教育以外の分野における本事業の意義及び成果が向上している。

いわて未来づくり機構　復興教育作業部会
活動状況報告
（令和元年度～令和2年度上半期）

座　長　　岩手大学教育学部　田代　高章

1. いわての復興教育プログラム　平成31年3月改訂版

目　的　：　郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成（復興・発展を支えるひとづくり）

震災津波の教訓から得られた教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）を具体化して、現代的な教育課題に対応し、これまでの教育活動を補完・充実させる

意　義　：　子どもたちが、「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造すること」ができるように、県内全ての学校で取り組むことに大きな意義がある。

○　震災津波の教訓から学んだことを生かす
○　どんな時でも、生き抜くための力を身に付ける

目指すべき成果　：
児童生徒の学びは学校を超え、地域全体に広がりを見せている現状に対して、児童生徒の学びを支えるために多くの大人が力を合わせることにより、新たな地域の姿を構築する。

いわて未来づくり機構では、復興を支える人材育成のため、岩手県教育委員会が推進する
「いわての復興教育」に対して、「いわての師匠派遣事業」を通じて支援を行う。

2. 復興教育作業部会参画機関

部会会員機関	オブザーバー参加機関
岩手県教育委員会事務局	富士大学
岩手県　政策企画部政策企画課	特定非営利活動法人いわて連携復興センター
岩手県　商工労働観光部 ものづくり自動車産業振興室	
岩手県　農林水産部農林水産企画室	
一般社団法人岩手経済同友会	
岩手県中小企業家同友会	
公立大学法人岩手県立大学	
国立大学法人岩手大学	

以上、6機関（8部署）
オブザーバー参加　2機関

3. 教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）

「復興教育作業部会（いわての師匠派遣事業）」と「いわての復興教育」の関係

「いわての復興教育」では子どもたちが「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方、あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造する」ために必要な「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値と具体の21項目を設定している。

復興教育作業部会は、いわての師匠派遣事業を通じて、20の派遣実施機関がそれぞれ「いきる」「かかわる」「そなえる」に沿ったテーマを設定し、支援を行う。

いきる	かかわる	そなえる
かけがえのない生命 すべての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にする。	**家族のきずな** 安心して生きていくための生活基盤として、家族の絆を大切にする。家族の一員として、自分の役割を果たす。	**自然災害の様子と被害の状況** 震災津波等、自然災害の様子と被害の状況について理解する。
自然との共生 自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念を持ち、自然とともに生きることについて考える。	**仲間とのつながり** 互いに支え合う仲間をつくり、友情を大切にする態度を養う。	**自然災発生のメカニズム** 震災津波等、自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。
価値ある自分 どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。	**地域とのつながり** 幼児や高齢者の人々・障がいのある人々等が一緒に生活している地域社会の人の思いを知り、地域への愛着をもつことができるようにする。	**自然災害の歴史** 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。
夢や希望の大切さとやり抜く強さ 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、どんな状況においてもたくましく生きていくという強い意志と態度を養う。	**ボランティア・救援活動** 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	**災害のライフライン・地域経済への影響** 震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、水・電気・ガス・灯油・ガソリン・道路などの供給・輸送システムやその大切さを理解し、ライフラインが止まった時に対応できるようにする。
自分の成長 自分の成長や生活が多くの人の支えで成り立っていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようにする。	**自分と地域社会** 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	**災害時における情報の収集・活用・伝達** 震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、情報の大切さ、情報の収集、選択・判断、発信の方法などについて理解し、活用できるようにする。
心の健康 つらいことや悲しいこと、環境からくるストレスなどを感じた時の対処方法を学び、自分自身で心の健康を維持する。	**復旧・復興のあゆみ** 震災津波等の自然災害で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	**学校・家庭・地域での日頃の備え** 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。
身体の健康 周囲の環境を理解し、状況に合わせながら安全に気を付けて遊んだり、運動したりする。	**災害に備える地域づくり** 次の災害に向けたまちづくり、地域づくりにかかわる。	**身を守り、生き抜くための技能** 危機を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。

4. いわての師匠派遣協力機関

機関名	機関名	機関名
株式会社岩手銀行	一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会	岩手県信用保証協会（※）
岩手医科大学	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	岩手保健医療大学（※）
公立大学法人 岩手県立大学	株式会社日本政策金融公庫 盛岡支店	
国立大学法人 岩手大学	公益財団法人 岩手県南技術研究センター	
一般社団法人 岩手県銀行協会	公益財団法人 釜石・大槌地域産業育成センター	
株式会社日本政策金融公庫 盛岡支店	一般社団法人 岩手県医師会	
公益財団法人 岩手生物工学研究センター	一般社団法人 岩手経済研究所	

※は、令和2年度からの新規加入機関

以上、16機関

5. 令和元年度の活動内容

（1）目標・出すべき成果

○「いわての師匠」派遣事業の県内小中学校、高校への周知活動を継続して行い、引き続き各校の依頼に基づき講師派遣・プログラムの提供を行う。

○学校側のニーズに沿った活動の検討

（2）活動内容

潜在的なニーズを掘り起こし、派遣実施件数を増加させることを目的として、以下の活動を重点的に実施した。

①いわての復興教育プログラムの改訂、「いわての師匠」派遣事業開始から5年が経過し、学校側のニーズも変わってきていることから、実施要項等を各学校の教員が活用しやすいよう、岩手県教育委員会からアドバイスを得ながら、見直しを行った。
なお、見直し作業を行っている間も講師派遣が途切れぬよう、これまでと同様の事業を継続して実施した。

②岩手県教育委員会の協力のもと、見直した実施要項等を学校関係者が集まる会議（小中高等学校校長会議）等で配布し、周知を行った。

③作業部会を2回開催し、委員に内容を共有した。
・令和元年　5月：実施要項の改定内容の検討
・令和元年12月：見直し後の実施要項（案）の検討

6. 令和元年度の取組状況

日　付	内　　容
4月17日	「平成31年度　第1回岩手県指導主事会議」にて、「いわての師匠派遣事業」について周知（14団体・18名が参加）
4月26日	第１回復興教育作業部会開催 ～「いわての師匠派遣事業」実施要項の改訂について検討
4月25日 6月3日	岩手県教育委員会にて、実施要項等について意見交換
6月11日	いわての復興教育・防災教育研修講座にて、「いわての師匠派遣事業」について周知（57団体・57名が参加）
7月23日	「いわての師匠派遣事業」への協力依頼発送 ～「いわての師匠派遣事業」実施要項の改訂に伴い、派遣実施機関の協力を依頼（8/26締切：現在、実施要項等の見直しと併せて取りまとめ中）
1月9日	第２回復興教育作業部会開催 ～「いわての師匠派遣事業」実施要項の最終版について意見交換

※　当初計画では、令和元年度中に第３回復興教育作業部会を開催のうえ、改訂版「いわての師匠派遣事業」実施要項を県内各学校へ送付することとしていたが、新型コロナウィルス感染拡大の影響等により、令和２年度に延期。

7. いわての師匠派遣事業の実績（令和元年度）

日付	学校名	人数	講師	内容
8/1（木）	認定こども園 都南幼稚園	教職員　6名	岩手大学地域防災研究センター 福留　邦洋　教授	危機管理マニュアルの中身について意見交換
9/1（木）	釜石市立 大平中学校	生徒　27名 教職員　4名 保護者　22名	岩手大学地域防災研究センター 福留　邦洋　教授	防災マップの作成
9/4（水）	八幡平市立 西根中学校	生徒　241名 教職員　25名	岩手大学地域防災研究センター 土井　宣夫　客員教授	岩手山が噴火した場合の被害状況とそれに対応する避難行動
9/20（金）	盛岡市立 本宮小学校	第1学年　62名 教職員　7名	岩手大学地域防災研究センター 熊谷　誠　特任助教	防災マップを活用した「DIG」
9/26（木）	大船渡市 副校長会	副校長　19名	岩手大学地域防災研究センター 福留　邦洋　教授	作成したマニュアルの見直し
10/1（火）	住田町立 有住中学校	全校生徒　38名 教職員　14名	岩手大学理工学部 松林　由里子　助教	防災マップを活用した大雨洪水のワークショップ
10/7（月）	大船渡市立 大船渡中学校	3年生　44名 教職員　6名	岩手大学地域防災研究センター 福留　邦洋　教授	DIGの講義と演習
10/17（木）	宮古恵風支援学校	教職員　50名	岩手医科大学 奥野　史寛　氏	教職員の防災教育の研修会
10/21（月）	岩手県立 紫波総合高等学校	全学年　443名 教職員　61名	岩手大学理工学部 松林　由里子　助教	紫波町で想定される、「大雨洪水」、「土砂災害」に対する備えの学習
10/21（月）	岩手県立 盛岡第一高等学校	全学年　844名 教職員　70名	岩手大学地域防災研究センター 越野　修三　客員教授	「災害時における避難について」の講話
11/6（水）	大船渡市立 大船渡中学校	第1学年　62名 教職員　7名	岩手県立大学　総合政策学部 伊藤　英之　教授	防災クロスロードゲーム
11/29（金）	八幡平市立 安代中学校	全学年・75名 教職員・13名	農学部 井良沢　道也　教授	「大雨・洪水等の自然災害」の講話と演習
12/6（金）	八幡平市立 平笠小学校	全学年・31名 教職員・10名	岩手大学地域防災研究センター 土井　宣夫　客員教授	講和「岩手山の噴火、自然災害の被害とそなえ」

8. いわての師匠派遣事業の実績(TOPIC)①

月　日:8月1日
学　校:認定こども園　都南幼稚園　教職員　6名
講　師:岩手大学　地域防災研究センター　福留教授
内　容:園で作成した危機管理マニュアルが、園の規模、立地条件、周辺の環境に対して適切なものになっているかのアドバイス

講師からのアドバイス

○避難や保護者への引渡しの基準が曖昧な為、実際に災害が起きた時にそれぞれ(職員・保護者)の判断に迷いが出てしまうことが予想される。災害が起きた時の、幼稚園の方針を明確にし、その基準(ルール)を保護者に紙面(A3一枚など)にまとめて伝えることが大事だと思う。

都南幼稚園からの感想

○ 本園で作成した危機管理マニュアルに沿って、具体的にわかりやすく改善点を教えていただきました。様々な状況を盛り込んで自分たちなりに作成してみたマニュアルでしたが、専門の先生に見ていただくと、曖昧だったり、抽象的でいざというときに迷いが生じる内容であることに気づかされました。

　先生に教えて頂いたことを元に、充実したマニュアル・訓練となっていくように今後につなげていきたいと思います。

危機管理マニュアルへの助言

8. いわての師匠派遣事業の実績(TOPIC)②

月　日:9月1日
学　校:釜石市立大平中学校　生徒　27名、保護者　22名、教職員　4名
講　師:岩手大学　地域防災研究センター　福留教授
内　容:学区の白地図を使って、土砂災害ハザードマップを作成

大平中学校生徒からの感想

○自分の住んでいる地区ではない人とチームを組むことで、自分の知らない情報が聞けたり、協力して考えられたりして、とても効率的に作業を進められたと思います。今回の作業で、この地域は山が多く、土砂災害が起きる可能性が高かったので、それを防いだり、もしそうなった時の対策を考えなきゃいけないと思いました。この土地の環境だから、防ぐのは少し難しいかもしれません。でも、起きた後の物資の運搬や人の逃げ道を作るため、道路の設備を整えることも大切だと思いました。

大平中学校保護者からの感想

○自分の住んでいる地域の危険箇所を再確認することができました。ほかの地域はよくわからなかったのですが、行き来することはありますので、今日の作業で知ることができてよかったです。ハード面、ソフト面、ともに考える機会を頂けて良かったです。

発表の様子

9. 令和2年度の活動計画

（1）目標・出すべき成果

○「いわての師匠」派遣事業の県内小中学校、高校への周知活動を継続して行い、
引き続き各校の依頼に基づき講師派遣・プログラムの提供を行う。

○学校側のニーズに沿った活動の検討

（2）活動計画

潜在的なニーズを掘り起こし、派遣実施件数を増加させることを目的として、以下の活動を重点的に実施する。

① 令和2年3月付けで改訂した、「『いわての師匠』」派遣事業実施要項」に基づき、講師の派遣・プログラムの提供を継続して実施する。

② 岩手県教育委員会及び各市町村教育委員会の協力のもと、実施要項等を県内小・中・高等学校及び支援学校等に配布するとともに、事務局（岩手大学）のホームページに実施要項及び事例集を公開し、周知を行う。

③ 以下の時期を目途に作業部会を開催し、委員に内容を共有する。
- 実施要項配布先等確認時（5月）※新型コロナウィルス感染拡大の影響により、メール開催
- 今年度活動状況の報告及び次年度以降の改善事項に関する検討等（12月～1月頃）

10. 令和2年度の取組状況

日　付	内　　容
5月27日	岩手県教育委員会にて、今年度事業計画等について意見交換
5月26日	第1回復興教育作業部会開催 ～「いわての師匠派遣事業」実施要項（改訂版）の内容及び送付先の確認、令和2年度事業計画及び令和2年度における「いわての師匠」派遣事業による講師の派遣方法等について検討～
6月22日	「いわての師匠」派遣事業実施要項の配布・公開 ～岩手県教育委員会及び市町村教育委員会を通じ、県内全ての小・中・高等学校及び特別支援学校へ配布するとともに、事務局（岩手大学）ホームページに実施要項及び事例集を公開～
（11月以降）	第2回復興教育作業部会 ～今年度活動の中間報告及び次年度以降の改善事項に関する検討等
（2月以降）	第3回復興教育作業部会 ～今年度活動総括及び次年度への申し送り事項確の確認

7. いわての師匠派遣事業　実施状況（令和2年度）

学校名	月日	人数	講師	内容
岩手県立 盛岡商業高等学校	①8月21日 ②9月11日 ③10月2日 ④11月6日 ⑤12月18日	3年生　80名	岩手県信用保証協会 企業支援課　高橋　敏文 同　大川　康亮 同　栗谷川　悠人	科目「課題研究」における企業までの流れ、ビジネスプランを学ぶ
釜石市立 釜石中学校	10月8日	2年生　100名	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留　邦洋	学校・家庭・地域での日頃の備え、防災教育に関わること
北上市立 黒沢尻北小学校	9月14日	3年生133名 教職員10名 行政担当10名 地域代表20名	岩手県立大学 総合政策学部　准教授 宇佐美　誠史	生徒への講義・演習 （「まちあるき」を行った後、交通安全、生活安全の視点による「安全マップ」の作成を行う）
一関市立 萩荘中学校	11月11日	全校生徒181名 教職員16名	岩手大学 理工学部　准教授 山本　英和	講話・演習： 一関市で被害があった岩手宮城内陸地震など地震災害の特徴とその対応策（備え）を中心とした内容
盛岡市立 乙部中学校	11月13日	2年生 生徒65名 保護者20名前後	（一社）岩手県銀行協会 常務理事　菊池　芳泉	演習 ・生活設計 ・マネープランゲーム
			（公財）岩手県生物工学研究センター 園芸資源研究部　西原昌宏 ゲノム育種研究部　阿部陽	講演 ・植物バイテクの今、昔 ・ゲノム解読と育種への利用
			（一社）岩手県宅地建物取引業協会 会長　多田　幸司	講演 ・君の可能性にかける～チャンスを掴むには
			岩手保健医療大学 看護学部看護学科　教授 福島　道子	講演 ・訪問看護って何？
水沢市立 水沢南中学校	日程調整中	1年生　175名	岩手大学 地域防災研究センター　客員教授 土井　宣夫	自然災害が発生するメカニズム・自然災害の歴史
	日程調整中	2年生　212名	岩手保健医療大学 看護学部看護学科　助教 齋藤　史枝	災害時にまず何をする？何が必要？～災害にあった時に大事なこと
盛岡中央高等学校	①11月30日 ②12月7日 ③未定	ARコース1年76名	調整中	科目「いわて学」における企業までの流れ、ビジネスプランを学ぶ
久慈市立 長内中学校	2月4日	1年生　75名	岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター センター長 眞瀬　智彦	講演：災害に備える地域づくり ・東日本大震災について ・災害医療について　など

8. いわての師匠派遣事業　令和2年度の傾向

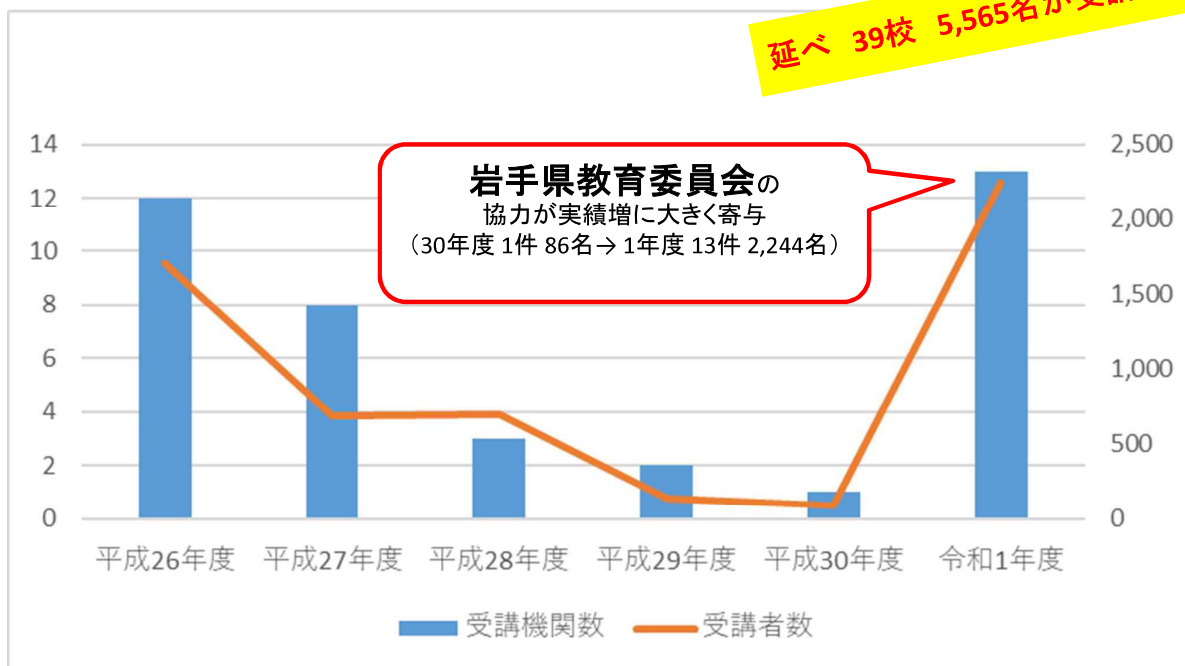
（1）「いわての師匠」派遣事業による派遣依頼数、実施時期

- 10月19日時点で8校（延べ12件）より依頼（昨年度実績：13件）
- 派遣時期は9月～2月（全体的に実施時期が昨年度より遅れている）

（2）今年度見られる新たな傾向

- 新型コロナの影響により、社会科見学などの学校行事が減少する中、代替手段として本事業の活用を希望する学校が発生。
- ビジネスプランやキャリア形成など、防災・復興教育以外のテーマを希望する学校が増加。
- 1校から多様なテーマでの派遣依頼があり、複数の機関でその要望に応えるような事例が発生。

⇒「いわての復興教育」で掲げる「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方、あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造する」ために必要な「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値を高める観点からも、防災教育以外の分野における本事業の意義及び成果が向上。

９. 年度ごとの受講機関数、受講者数の推移

今後の課題

① いわての師匠派遣事業登録機関の増加方策
☞ 実施要項改正前は20機関登録。改正後は16機関が登録。
- 時代に合わせた登録機関の継続的確保が必要。
- 教育的価値（いきる、かかわる、そなえる）から考えると、今後は防災教育以外の講師派遣が重要となる。

② 実施要項改正後の広報
☞ 教育現場への効果的な広報の方策
- 改訂後の実施要項を県内全ての小中高（特別支援学校を含む）に配布し、一定の周知効果は出ている。
- 令和2年度は新型コロナの影響で実施できなかったが、岩手県教育委員会の協力を得ながら、現場の教員が集まる「岩手県指導主事会議」や「いわての復興教育・防災教育研究講座」でも広報しているが、ブロック毎の説明会など、多様な場での広報も必要。

③ 新たなステークホルダーとの関わり方
- 令和元年度、初めて実施した教員向け、児童・保護者向け「いわての師匠派遣事業」 は、総じて評価が高かった。
- 「いわての復興教育」をさらに推進するうえでも、児童生徒を取り巻く環境に対しても、「いわての師匠派遣事業」による貢献が可能であることを確認。
- 今後は、教員向け、保護者向けに対応するプログラムの検討も必要。

いわて未来づくり機構
いわて復興未来塾作業部会の実績報告・活動計画

テーマ： 復興や地域づくりの担い手の育成及び人材のネットワークづくり

座長： 菊池　芳彦　　　　担当団体：岩手県復興局

報告要旨

復興を担う個人や団体など多様な主体に学びの場を提供するとともに、相互の交流や連携を図りながら、復興や地域づくりの担い手の育成と人材のネットワークづくりを推進するため、「いわて復興未来塾」を２回開催した。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

■いわて復興未来塾開催実績

回	開催日時	会場	テーマ	参加者数
第１回	令和元年 11 月 16 日（土）	陸前高田市（キャピタルホテル 1000）	「思いを伝え、つなぐ。未来のための伝承・発信」	約 150 名
第２回	令和２年 1 月 26 日（日）	盛岡市（エスポワールいわて）	「間もなく９年、復興のこれから」	約 120 名

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和元年度活動計画	令和元年度活動状況・成果・課題
（１）目標・出すべき成果 より良い復興の実現に向け、復興に関わりたいと考えている多くの方々に復興に関する学びの場を提供するとともに、参加された方々の交流や連携を図る。 （２）活動計画（令和元年度） 三陸防災復興シンポジウムが年４回開催されることを踏まえ、いわて復興未来塾は年２回開催する。 ➢第１回は、令和元年11月16日(土)に陸前高田市で開催。 ➢第２回は、令和２年１月26日（日）に「いわて三陸復興フォーラム」と併せて、盛岡市で開催。 【関連事項】 三陸防災復興シンポジウム2019の開催 ➢第１回　6/1、2 釜石市で開催 ➢第２回　6/28、29 久慈市で開催 ➢第３回　7/19、20 大船渡市で開催 ➢第４回　7/26、27 宮古市で開催	（１）活動状況・成果 ①第１回いわて復興未来塾について 「思いを伝え、つなぐ。未来のための伝承・発信」をテーマに、政策研究大学院大学客員教授の徳山日出男氏から、防災減災、津波などに関する「学び」や「備え」の重要性、震災の教訓を自分ごととして考えることの大切さを県民と共有することができた。 ②第２回いわて復興未来塾について 「間もなく９年、復興のこれから」をテーマに、国際的に活躍している女性フォトジャーナリストの安田菜津紀氏をはじめ、沿岸被災地で復興まちづくりや伝承活動等を行っている若者、女性を登壇者に起用するなどし、若い世代の視点を取り入れ、多様な世代に向け参画を促すことができた。併せて、初めての試みとして、登壇者と参加者が意見交換するポスター展示ブースを設置し、会場内の交流、連携の促進を図ることができた。 （２）課題 新型コロナ禍において、多くの方々に本塾に参加いただくため、県内外の遠隔地等からも関心を寄せていただけるよう、オンラインの活用等を含めた情報発信や、周知・広報活動に力を入れる必要がある。

（次ページあります）

３．今後の活動方針・予定

（令和２年度の活動方針や予定について簡潔に記載願います。）

（１）目標・出すべき成果

より良い復興の実現に向け、復興に関わりたいと考えている多くの方々に復興に関する学びの場を提供するとともに、参加された方々の交流や連携を促進する。

（２）活動計画

いわて復興未来塾は年３回開催することとし、開催に当たっては新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、感染防止対策の徹底を図り、開催規模の縮小やリモートの活用、テレビ媒体の利用などにより、復興の姿を県内外の幅広い世代に重層的に発信する。

第１回：令和２年８月23日（日）に山田町及び大槌町で開催した。

第２回：令和２年12月中旬に県外フォーラム（東京）において、沿岸被災地とつなぐリモート形式で開催予定。

第３回：令和３年１月下旬に盛岡市で開催予定。

※ 当該様式は令和元年度総会時の作業部会報告資料と同じ様式としています。
具体的な取組がイメージできるよう、関係資料等を添付いただきますようお願いします。

令和元年度

第1回 いわて復興未来塾

思いを伝え、つなぐ。未来のための伝承・発信

令和元年11月16日(土)

14:00～16:30

陸前高田市
キャピタルホテル1000
カメリアプラザホール

<キャピタルホテル1000>
〒029-2205　岩手県陸前高田市高田町長砂60-1
TEL 0192-55-3111 ／ FAX 0192-55-3500
交通アクセス　JR大船渡線BRT「高田高校前」駅より徒歩10分

会場に関する情報や会場周辺の地図はこちらからご覧いただけます。
ご使用の携帯電話からご覧いただけない場合は、パソコンなどで、
http://capitalhotel1000.jp/accessをご覧ください。

主催：いわて未来づくり機構
お問合せ：岩手県復興局復興推進課　TEL:019-629-6945　FAX:019-629-6944　E-mail:AJ0001@pref.iwate.jp

シャトルバスをご利用の方は
伝承館を見学できます！

高田松原復興祈念公園内に整備された
東日本大震災津波伝承館と道の駅

- 14:00 ～ 14:05　開会・知事挨拶
- 14:05 ～ 15:05　基調講演
  徳山 日出男 氏（政策研究大学院大学客員教授）
- 15:15 ～ 16:30　パネルディスカッション
  ■コーディネーター
  菅野 真美恵 氏（ＦＭねまらいんパーソナリティー）
  ■パネリスト
  山﨑 麻里子 氏（中越メモリアル回廊アンバサダー）
  越戸 浩貴 氏（一般社団法人マルゴト陸前高田理事）
  佐藤 克美 氏（気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館館長）
  ■コメンテーター
  徳山 日出男 氏（基調講演者）
- 16:30　閉　会

基調講演

徳山 日出男 氏
（政策研究大学院大学客員教授）

岡山県出身。東京大学工学部を卒業後、旧建設省に入省。平成23年の東日本大震災時、東北地方整備局長として救命、復旧に尽力。平成27年７月から平成28年６月まで国土交通省事務次官。平成28年7月から現職。

菅野 真美恵 氏（FMねまらいんパーソナリティー）

大船渡市出身。平成27年からＦＭねまらいんのパーソナリティとして勤務している。現在は、朝の生放送「きらモニ！」（水・金曜日）、お昼の生放送「ねまランチ♪」（木曜日）を担当している。

パネリスト

山﨑 麻里子 氏（中越メモリアル回廊アンバサダー）

新潟県長岡市出身。中越地震の震災伝承、復興に向けた地域づくりを支援する「中越メモリアル回廊」の整備・運営に携わる。自然災害を経験した全国の被災地と連携を図りながら活動を続け、現在は、宮城県仙台市に移り、東北の震災伝承にも関わる。

越戸 浩貴 氏（一般社団法人マルゴト陸前高田理事）

久慈市出身。平成25年の夏に陸前高田に移住。交流人口や移住を扱う2つの法人の役員。得意分野は民泊、空家、郷土芸能、祭りなど暮らしの匂いがするもの。空家を譲り受け、レコードやCD、本に埋め尽くされた暮らしをしている。

佐藤 克美 氏
（気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館館長）

宮城県気仙沼市出身。昭和61年気仙沼市役所へ入庁。平成23年３月から東日本大震災に伴う災害等廃棄物処理担当。平成31年１月東日本大震災遺構・伝承館館長に就任。

いわて復興未来塾とは

達増拓也
（岩手県知事）

　東日本大震災津波からの復興を力強く進めていくためには、復興を担う個人や団体など多様な主体が、復興について幅広く教え合い、学び合うとともに、相互に交流や連携をしながら、復興の推進に生かしていくことが求められます。
　このため、岩手県内の産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」では、「未来づくり＝人づくり」との考え方のもと、「いわて復興未来塾」を開催しています。

塾に関する情報はこちらからもご覧いただけます。

ご使用の携帯電話からご覧いただけない場合は、パソコンなどで、
https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/event/index.html
をご覧ください。

いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。
http://iwate-archive.pref.iwate.jp/
をご覧ください。

盛岡 ⟷ 陸前高田のシャトルバス（無料）御案内

当日は、盛岡・陸前高田間往復バスを運行します。座席の数に限りがありますので、申込みはお早めにお願いします。

経路及び発着予定時刻

往路：盛岡駅西口8:15発→岩手県庁8:30
→高田松原津波復興祈念公園視察11：20～12：20
→アバッセたかた12:40～13:40
→会場着13:45
復路：会場発16:40→岩手県庁19:30→盛岡駅西口19:45着

問い合わせ先

いわて未来づくり機構
（事務局：岩手県復興局復興推進課）
〒020-8570　盛岡市内丸10-1
TEL：019-629-6945／FAX：019-629-6944
E-mail：AJ0001@pref.iwate.jp

申込方法

下記のいずれかの方法で申込みください。

E-mail で申込み

件名を「**第１回いわて復興未来塾**」として、下記の必要事項をご記入の上、申込みください。

- ■氏名（ふりがな）
- ■住所
- ■メールアドレス
- ■所属・団体名等
- ■電話番号・FAX
- ■バス利用の有無

E-mail　**AJ0001@pref.iwate.jp**

FAX又は郵送で申込み

下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、申込みください。

※郵送の場合は締切日必着でお願いします。

FAX　**019-629-6944**

第１回　いわて復興未来塾　参加申込書

ふりがな 氏　名	所属・ 団体等
〒 住　所	ＴＥＬ ＦＡＸ
シャトルバス利用の有無（どちらかに○をつけてください）	ＭＡＩＬ

利用する（乗車場所　盛岡駅西口　／　県庁　）　・　**利用しない**

※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき、他の用途には一切使用しません。

岩手県知事
達増 拓也

いわて復興未来塾とは

東日本大震災津波からの復興を力強く進めていくためには、復興を担う個人や団体など多様な主体が、復興について幅広く教え合い、学び合うとともに、相互に交流や連携をしながら、復興の推進に生かしていくことが求められます。
このため、岩手県内の産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」では、「未来づくり＝人づくり」との考え方のもと、「いわて復興未来塾」を開催しています。

各会場

会場の地図等は下記URL、二次元バーコードからご覧いただけます。

【全体会会場】
エスポワールいわて
岩手県盛岡市中央通1-1-38
TEL 019-623-6251
http://espoir-iwate.com/access/

【内陸報告会会場】
サンセール盛岡
岩手県盛岡市志家町1-10
TEL 019-651-3322
https://www.kouritsuyasuragi.jp/morioka/access/

【沿岸報告会会場】
釜石情報交流センター チームスマイル・釜石PIT
岩手県釜石市大町1-1-10
TEL 0193-27-8751
https://kamaishi-pit.team-smile.org/access/index.html

問い合わせ先

岩手県復興局復興推進課
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
TEL：019-629-6945
FAX：019-629-6944
E-mail：AJ0001@pref.iwate.jp

申込締切

令和２年１月17日(金)

申込方法

下記のいずれかの方法で申込みください。

E-mail で申込み

件名を「**いわて三陸復興フォーラム**」として、下記の必要事項をご記入の上、申込みください。

■氏名（ふりがな）
■住所
■メールアドレス
■所属・団体名等
■電話番号
■参加希望

E-mail AJ0001@pref.iwate.jp

FAX又は郵送で申込み

下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、申込みください。

※郵送の場合は締切日必着でお願いします。

FAX 019-629-6944

令和元年度　いわて三陸復興フォーラム　参加申込書

ふりがな
氏　名

所属・
団体等

〒
住　所

ＴＥＬ
ＦＡＸ

参加希望（希望するものに○をつけてください）

開催日	項　目					参　加
令和２年 1月26日 (日)	全体会（無料）					○
	交流会（参加費：3,000円）					○
令和２年 1月27日 (月)	内陸報告会					○
	沿岸報告会	集合場所（いずれかに「○」）		解散場所（いずれかに「○」）		
		盛岡駅西口 バスターミナル (7:50)	釜石情報交流センター チームスマイル・釜石PIT (10:00)	釜石情報交流センター チームスマイル・釜石PIT (15:40)	盛岡駅西口 バスターミナル (17:30)	
		○	○	○	○	

交流会の参加費（3,000円）は当日会場でお支払い下さい。

※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき、他の用途には一切使用しません。

令和元年度

いわて三陸復興フォーラム

参加無料 どなたでも参加できます

間もなく９年、復興のこれから

併催：「いわての復興を自治の進化に」第７回シンポジウム
令和元年度第２回「いわて復興未来塾」

令和２年 1月26日（日）

全体会（令和元年度第２回いわて復興未来塾）
時間　13：15～17：00　（詳細は裏面へ）
会場　エスポワールいわて（盛岡市中央通1-1-38）

令和２年 1月27日（月）

内陸報告会
時間　13：00～15：30
会場　サンセール盛岡（盛岡市）

沿岸報告会
時間　10：00～15：10
会場　釜石PITほか

主催／岩手県、いわて未来づくり機構

後援／復興庁、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会、岩手大学、岩手県立大学、岩手県社会福祉協議会、NPO法人いわて連携復興センター、岩手日報社、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、河北新報社、産経新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、岩手日日新聞社、デーリー東北新聞社、共同通信社盛岡支局、時事通信社盛岡支局、ＮＨＫ盛岡放送局、ＩＢＣ岩手放送、テレビ岩手、エフエム岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、盛岡タイムス社、東海新報社、釜石新聞社

問い合わせ先：岩手県復興局復興推進課
TEL:019-629-6945　FAX:019-629-6944　E-mail:AJ0001@pref.iwate.jp

1日目　令和２年１月26日（日）

併催　令和元年度第２回　いわて復興未来塾

全体会

時　間　13：15～17：00
会　場　エスポワールいわて大ホール（定員200名）

時間	内容
13:15 ～ 13:45	ポスターセッション
14:00 ～ 14:05	開会・知事挨拶
14:05 ～ 15:05	基調講演
15:15 ～ 17:00	パネルディスカッション
17:00	閉会

パネリストによるポスターセッションを行います

パネルディスカッションで、さらに復興状況への理解を深めていただけるよう、開会前にパネリストが自ら紹介ブースを出展します。
活動内容を詳しくお知りになりたい方や、じっくりお話しを聞いてみたい方は、ぜひお立ち寄りください。

そばっちも参加します

基調講演

安田　菜津紀　氏（フォトジャーナリスト）

神奈川県出身。NPO法人Dialogue for People所属フォトジャーナリスト兼副代表。東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

総合司会/コーディネーター

さの　りえ　氏（フリーアナウンサー）

盛岡市出身。早稲田大学卒業後、JICA、WWF、国連日本代表部等でインターン。米国大学院で修士号を取得。平成27年から４年間、復興支援員『釜援隊』で広報を担当。現在はラジオパーソナリティの他、企画から司会まで一貫して伴走する『寄り添い型MC』として活動中。

パネルディスカッション

臂　徹　氏（株式会社キャッセン大船渡取締役）

群馬県出身。大学院修了後、勤務していた会社から祖母の故郷である岩手に復興業務のため現地派遣され、大槌町での業務を担当。その後プランニング会社を設立し、沿岸を中心に業務展開する中で、大船渡の中心市街地にて、タウンマネージャーとしての活動をスタート。

服部　真理　氏（やまだワンダフル体験ビューロー体験観光コーディネーター）

東京都出身。大学卒業後雑誌・書籍の編集者をしていたが、平成26年に一念発起し転職。岩手県山田町の復興コーディネーターとして交流人口の拡大等の業務に就く。平成28年から業務を観光に絞り、「やまだワンダフル体験ビューロー」を立ち上げ、町内の着地型観光のコーディネーターとして活動中。

菊池　のどか　氏（株式会社かまいしDMC地域創生事業部/いのちをつなぐ未来館職員）

岩手県釜石市橋野町生まれ。
釜石市立釜石東中学校3年生の時に、東日本大震災が発生し、小学生と一緒に1.6km先の峠へと避難し助かった。語り部活動を行い、被災地、未災地関係なく、同世代が「災害」や「いのち」について考え、自由に語り合う場作りを行っている。

交流会

県・市町村・大学・企業・団体・応援職員OBなど復興に関わる皆様の情報交換の場として交流会を開催します。

- ■時　間　17：30～19：00
- ■会　場　エスポワールいわて１階イベントホール
- ■参加費　3,000円
- ■定　員　50名

2日目　令和２年１月27日（月）

内陸報告会

時　間　13：00～15：30
場　所　サンセール盛岡「瑞雲」（定員200名）

時間	内容
13:00 ～13:05	開会
13:05 ～14:05	基調講演
14:15 ～15:30	応援職員活動報告

室崎　益輝　氏（兵庫県立大学大学院･減災復興政策研究科研究科長･教授）

兵庫県出身。京都大学建築学科卒業。神戸大学教授、消防研究所理事長、関西学院大学教授などを経て、平成29年より現職。災害復興学会会長などを歴任。建築学会論文賞などを受賞。

各分野で活躍する全国自治体等からの応援職員による活動報告を行います。

発表分野	所　属	氏　名　（派遣元）	概　要
「安全」の確保	県北広域振興局土木部河川港湾課	山本　浩輔（栃木県）	復旧・復興工事の取組状況等
	県土整備部都市計画課	横山　朋大（東京都）	
「暮らし」の再建	保健福祉部医療政策室	小野寺　陽平（秋田県）	保健福祉、環境分野に関する取組等
	環境生活部県民くらしの安全課	瀧口　雄貴（東京都）	
「なりわい」の再生	商工労働観光部経営支援課	八尋　悠良（東京都）	商工業、水産業の復旧状況等
	沿岸広域振興局水産部宮古水産振興センター	大城　佑太（沖縄県）	
未来のための伝承・発信	復興局復興推進課	山谷　佳子（民間企業）	復興情報発信の取組等

沿岸報告会

震災から間もなく９年目を迎える被災地の今を伝えるため、無料送迎バスによる伝承施設、防潮堤等の見学や全国自治体からの応援職員の活動報告を行う「沿岸報告会」を開催します。

釜石PIT

時間	内容
7:50 ～　8:00	バス受付（盛岡駅西口バスターミナル）　8:00発
8:00 ～ 10:00	バス移動
10:00 ～ 10:15	会場受付（釜石情報交流センター　チームスマイル･釜石PIT）
10:15 ～ 11:30	東京都応援職員による活動報告　沿岸広域振興局土木部　奥平　周示
	静岡県応援職員による活動報告　沿岸広域振興局土木部　岡島　雄一郎／沿岸広域振興局土木部　桑原　直哉
	「釜石大観音仲見世通りのリノベーションまちづくりについて」　合同会社sofo 代表社員　宮崎　達也　氏
11:30 ～ 12:30	昼食・自由行動（釜石市大町周辺）
12:50 ～ 15:10	復興の現場見学（片岸海岸防潮堤、うのすまい・トモス、釜石大観音仲見世通り）
15:10 ～ 15:40	バス移動　チームスマイル･釜石PIT前　15:40着
15:40 ～ 17:30	バス移動　盛岡駅西口バスターミナル　17:30着

【注意事項】
- 参加お申し込みの際は、裏面の「参加申込書」によりお申し込みください。
- 盛岡発着の無料シャトルバス（定員40名）を運行します。
- 報告会会場まで自家用車でお越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用願います。
- 当日の道路状況により時間を調整する場合があります。
- 昼食のご用意はありませんので、周辺の飲食店でお取りいただくか、各自でご用意ください。（時間厳守となります。飲食店は混雑することも予想されますので、ご了承ください。）

盛岡発着無料シャトルバスを運行します

沿岸報告会

令和２年度

第１回

いわて復興未来塾

東日本大震災津波の教訓と復興の姿 ～１０年目の沿岸被災地から～

令和２年8月23日 日

１１：００～１５：４０

<沿岸報告会プログラム>

山田町：復興まちづくり状況視察

大槌町：事例報告

復興の現場（水門）視察

<事例報告会会場：大槌町文化交流センターおしゃっち（定員50名）>

〒028-1117　岩手県上閉伊郡大槌町末広町1番15号
TEL 0193-27-5181 ／ FAX 0193-27-5182
交通アクセス　三陸鉄道「大槌駅」より徒歩10分

会場に関する情報や会場周辺の地図はこちらからご覧いただけます。なお、駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

https://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/374322.html

大槌川・小鎚川河口上空より

スケジュール

11:00 ～ 12:10　山田町 復興まちづくり状況視察

■コーディネーター　服部　真理 氏
（やまだワンダフル体験ビューロー）

13:30 ～ 15:00　大槌町 事例報告

■司　　会　　服部　真理 氏（やまだワンダフル体験ビューロー）
■事例報告
・大槌高校復興研究会による防災絵本の発表(高校生による発表)
・オランダ島ハウスにおける山田町放課後児童クラブ・子育てサロンの紹介　（山田町職員による報告）
・大槌川水門・小鎚川水門に関する発表
（沿岸広域振興局応援職員による報告）
■コメンテーター　神谷 未生 氏　（おらが大槌夢広場代表理事）

15:10 ～ 15:40　大槌町 復興の現場 大槌川水門・小鎚川水門視察

■説明　沿岸広域振興局応援職員他

震災直後に山田町役場からみた山田町市街地

上の写真と同じ場所から見た現在の山田町市街地

主催：いわて未来づくり機構

お問合せ：岩手県復興局復興推進課　TEL:019-629-6945　FAX:019-629-6944　E-mail:AJ0001@pref.iwate.jp

コーディネーター

はっとり　まり
服部　真理 氏（やまだワンダフル体験ビューロー）
東京都出身。平成26年から山田町復興支援員に着任。山田町の体験型観光の窓口「やまだワンダフル体験ビューロー」を担当。新たな観光プログラムの開発や旅行会社への営業など、業務は多岐にわたる。復興まち歩きツアー等県内外へ山田町の魅力を発信している。

コメンテーター

かみたに　み　お
神谷　未生 氏（（一社)おらが大槌夢広場　代表理事）
名古屋市出身。東日本大震災津波発災直後より大槌町で復興支援にあたる。2012年より、現在代表理事を務める「おらが大槌夢広場」に所属。復興ツーリズム事業の展開や高校生育成事業、今年４月よりおしゃっちを中心とした地域活性化にも挑戦中。

事例発表者

大槌高校復興研究会

大槌高校の復興研究会では、大震災の教訓を伝える生徒手づくりの紙芝居をまとめ、DVD付き絵本「伝えたいこと　あの日、私は小学２年生だった」を制作した。震災を経験していない世代が増え、紙芝居形式により手軽に何度も読めるように工夫しながら、震災の伝承発信に取り組んでいる。

ささき　みちほ
佐々木 美智穂　助産師
（山田町健康子ども課子育て世代包括支援センター）
一般社団法人オランダ島による復興支援により2014年に「オランダ島ハウス」が完成。現在、ここを拠点に放課後児童クラブや子育てサロンを実施している。

なかたに　きょうすけ
中谷　恭右 技師　（静岡県派遣）
（沿岸広域振興局土木部復興まちづくり課）

静岡県からの応援派遣職員として沿岸広域振興局に勤務。大槌川水門・小鎚川水門の水門土木工事の監督員として、工事設計書作成、現場管理、関係機関調整等を担当。

いわて復興未来塾とは

岩手県知事
達増　拓也

東日本大震災津波からの復興を力強く進めていくためには、復興を担う個人や団体など多様な主体が、復興について幅広く教え合い、学び合うとともに、相互に交流や連携をしながら、復興の推進に生かしていくことが求められます。

このため、岩手県内の産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」では「未来づくり＝人づくり」との考え方のもと、「いわて復興未来塾」を開催しています。

新しい生活様式に配慮した実施について

・参加者の皆様は、検温、マスクの着用、手指消毒等にご協力をお願いします。スタッフもマスク着用で業務にあたります。
・事例報告会場では三密空間を避けるため、座席数を減らし一定の間隔を保ちます。また、扉を開けるなど換気に努めます。

盛岡発の往復シャトルバス（無料）のご案内（乗車定員30人）

当日は、盛岡から現地までの往復バスを運行します。座席数に限りがありますので、申込みはお早めにお願いします。

※乗車前の検温、手指消毒、マスク着用にご協力ください。
座席数を減らす等の感染防止を図り運行します。

【往路】盛岡駅西口8:15発→岩手県庁8:45発→陸中山田駅→おしゃっち→大槌川・小鎚川水門
【復路】大槌川・小鎚川水門15:40発→岩手県庁18:00着→盛岡駅西口18:15着

問い合わせ先

いわて未来づくり機構
（事務局：岩手県復興局復興推進課）
〒020-8570　盛岡市内丸10-1
TEL：019-629-6945／FAX：019-629-6944
E-mail：AJ0001@pref.iwate.jp

申込締切

８月７日（金）

申込方法

下記のいずれかの方法で申込みください。

E-mail で申込み
件名を「**第１回いわて復興未来塾**」として、下記の必要事項をご記入の上、申込みください。
■氏名（ふりがな）■職業・所属・団体名等
■住所・電話番号・FAX■メールアドレス
■参加プログラム（下記申込書参照）
■バス利用の有無（乗車場所含む）

E-mail　AJ0001@pref.iwate.jp

FAX又は郵送で申込み
下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、申込みください。
※郵送の場合は締切日必着でお願いします。

FAX　019-629-6944

第１回　いわて復興未来塾　参加申込書

ふりがな
氏　名

職業・所属
団体名等

〒
住　所

Tel　　Fax

Mail

シャトルバス利用の有無（どちらかに○をつけてください）
・**利用する**（乗車場所　盛岡駅西口 ・ 県庁　）
・**利用しない**
定員に達した場合、ご遠慮いただく場合があります。

参加プログラム（参加するものに○をつけてください。複数選択可）
・**山田町 復興まちづくり状況視察**
・**大槌町 事例報告**　・**大槌町 現場（水門）視察**

※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき、他の用途には一切使用しません。

いわて未来づくり機構 イノベーション推進作業部会の

実績報告・活動計画

テーマ： 岩手型イノベーションの推進について

座長： 古舘　慶之　　　　担当団体：科学・情報政策室

報告要旨

Society5.0の目指す超スマート社会を見据え、岩手県科学技術イノベーション指針に基づき、ドローン物流の社会実装に向けた実証実験を実施するとともに、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の達成に向けて、「暮らし×遊び×イノベーション」をテーマにしたワークショップを開催した。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

日付	内容
令和元年11月20日	第１回作業部会開催 ・ワークショップ企画案、先進地視察案等協議
令和２年１月15日	第２回作業部会開催 ・ワークショップ企画案協議
令和２年２月13日	第３回作業部会開催 ・ワークショップリハーサル
令和２年３月18日	第４回作業部会 ・ワークショップ開催結果報告、次年度計画案協議

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和元年度活動計画	令和元年度活動状況・成果・課題
岩手県科学技術イノベーション指針に基づく文化生活面への社会実装、経済分野への展開を推進	■ドローン物流実証実験 ・日　時：令和２年２月13～26日／岩泉町 ・内　容：携帯電話網を活用した目視外補助者なし自動飛行検証 ・成　果：22回飛行し18回成功 ※　配送した商品：岩泉ヨーグルト、龍泉洞の化粧水など（約１kg）。 ■ワークショップ開催 ・日　時：令和２年２月22日（土）／紫波町 ・テーマ：「暮らし×遊び×イノベーション」 ・参加者：11名 ・成　果：社会課題に応じた科学技術の活用に関して問題意識を共有

３．今後の活動方針・予定

Society5.0の目指す超スマート社会を見据え、岩手県科学技術イノベーション指針に基づき、引き続きドローン物流の社会実装に向けた実証実験を実施するとともに、社会課題解決に向けた未来技術の活用に関するワークショップ開催や全国における活用事例を調査し、本県における取組の方向性について研究を進める。

いわて未来づくり機構 子育て支援部会の実績報告・活動計画

テーマ： 母と子だけではなく家族全体を支える岩手版ネウボラの開発

座長： 庄司　知恵子　　　担当団体：岩手県立大学

報告要旨

平成30年度に取り組んできた作業から、制度が整っていても、仕事と育児の両立の難しいという現状が見えてきた。その背景には「職場の雰囲気」が大きく影響する点も各活動を通して見えてきた。

そこで、令和元年度は、これまでの活動から企業における子育て支援体制のあり方について検討を行った。「子育て支援が充実している職場のあり方」を柱に、「子育て支援環境が整った企業インターンシップ」の実施、インターンシップ協力企業と働き方改革のトップを走るサイボウス株式会社を交えての「ワーク・ライフ・バランス推進セミナー」を実施した。これら活動を通して、県民に、職場の雰囲気を改善することの重要性を伝えると同時に、次世代の若者たちに子育てと仕事の両立について考える機会を提供した。

また、職場環境の改善に努めている企業への調査を通して、さまざまな認証取得が子育て環境の整備だけではなく、子育ての理解といった経営側・管理職の意識改善につながっている点を明らかにした。とはいえ、職場環境の改善に積極的に努めている企業でさえも、さまざまな活動が男性の育児休暇の取得のしやすさにはなかなか結び付いておらず、この点については検討すべき課題として次年度作業（調査）にも活かしていく予定である。

次年度は、地域や自治体における子育て環境の整備についても検討することを目的としており、そのヒントを得るためNZ子育て家庭環境視察研修2020への参加、看護小規模多機能むく（佐賀県唐津）視察を検討していたが、コロナ禍によりキャンセルとなった。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

日付	内容
令和元年4月	ファミサポプロジェクト検討会
令和元年5月	子育て支援環境が整った企業に特化したインターンシップ先訪問・学生説明会
令和元年7月7日	岩手県立大学男女共同参画推進シンポジウム 「男性の育児休業」
令和元年8-9月	インターンシップの実施 (株式会社タカヤ・リコージャパン株式会社岩手支社)
令和元年11月	企業における子育て支援体制についての調査 (384事業所対象→139件回収（36.4%）)
令和元年11月23日	ふるさと発見！大交流会　in IWATE2019 「いわてオリジナルのインターンシップと働き方改革～実はイケてるいわてのインターンシップ～企画」パネリストとしての参加
令和元年12月13日	ワーク・ライフ・バランス推進セミナー 「あなたの育児も仕事も応援します！！－職場の雰囲気づくりって、どうやってやればいいの？－」
令和2年2月27-3月7日	NZ子育て家庭環境視察研修2020への参加 子どもファーストの社会について→コロナ禍によりキャンセル
令和2年3月23日-25日	看護小規模多機能むく（佐賀県唐津）視察 入居者と子育て親子の交流→コロナ禍によりキャンセル

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
令和元年度活動計画	**令和元年度活動状況・成果・課題**
①企業における子育て支援の雰囲気づくり	① ワーク・ライフ・バランス推進セミナー「あなたの育児も仕事も応援します！！－職場の雰囲気づくりって、どうやってやればいいの？－」を実施。②のインターンシップ参加企業とサイボウズ株式会社の参加により、さまざまな事例を交えながらパネルディスカッションを行い、好評を得た。
②企業における子育て支援の重要性についての理解・提示、次世代育成	② インターンシップin東北における「子育て支援環境が整った企業に特化したインターンシップ」を実施した。参加企業においては、自分の職場の状況を知る良い機会なり、子育て支援環境が整った企業としての周知にもつながった。参加者においては、働くこと自体の捉え直しや、子育てについて考える良いきっかけとなった。
③企業における子育て支援整備状況についての調査・分析	③企業における子育て支援体制についての調査を行った。（384 事業所対象→139 件回収（36.4%）） 認証取得が子育て環境の整備だけではなく、子育ての理解といった経営側・管理職の意識改善につながっている点を明らかにした。とはいえ、職場環境の改善に努めている企業でさえも、さまざまな活動が男性の育児休暇の取得のしやすさにはなかなか結び付いておらず、この点については、検討すべき課題として残された。

３．今後の活動方針・予定

地域と子育ての在り方について検討をする。

①自治体における子育て支援の取組についての調査―「小1の壁」について

滝沢市・大船渡市・北上市の学童に通う小学校1年生の保護者を対象とする

②地域における子育て支援のあり方について―親子と地域をつなぐ幼老交流

令和２年度　ワーク・ライフ・バランス推進セミナー

「子育て&働く…そして、結び目になる－地域の子育て拠点としての価値を作る―」

12月4日（金）　岩手県立大学講堂にて　13時半～16時

第一部：講演「子連れ出勤×介護は一石三鳥だった！～赤ちゃんがいる介護現場むくの取り組み～」

講師：佐賀県　「看護小規模多機能むく」　代表　佐伯美智子氏

第二部:パネルディスカッション　「岩手でもやってみようよ！！」

コーディネーター：社会福祉学部・柏葉英美准教授

パネリスト：盛岡「第二の我が家」　理事　西舘淳也氏

パネリスト：仙台「アンダンチ」　代表 福井大輔氏

パネリスト：社会福祉学部・庄司知恵子准教授

コメンテーター：佐賀「看護小規模多機能むく」　代表　佐伯美智子氏

③次世代とともに「子育て」について考える―県立大・NZ研修参加予定学生との作業

令和元年度ワーク・ライフ・バランス推進セミナー

あなたの育児も仕事も応援します!!

～職場の雰囲気づくりって、どうやればいいの?～

開催日 令和元年**12**月**13**日(金) **13:30～16:00**

場所 プラザおでって 3階 おでってホール

参加無料

参加対象 企業および施設の経営者・人事労務担当者、一般労働者、行政関係者、その他、ワーク・ライフ・バランスに興味のある方等どなたでもご参加いただけます。

定員 100名(先着順)

申込方法 裏面の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールでお申し込み下さい。

スケジュール

13：00　受付開始
13：30　開会(主催者挨拶)
13：35　第一部：講演(講師：和田武訓氏)
14：30　休憩
14：35　第二部：パネルディスカッション
15：35　行政説明
16：00　閉会

第一部 講演

講師 和田 武訓氏(サイボウズ株式会社 チームワーク総研 総括ディレクター)

演題 働き方の変化に合わせた組織の進化
～100人100通りの働き方とは～

最大6年の育児休暇制度や複業の自由化など先進的な働き方で知られるサイボウズ。
かつて離職率28%という時代がありました。
働き方改革を成功させるための鍵となる「働き方の多様化」を推進するポイントは何か。
サイボウズの事例や自身の育児休暇の体験談を元にしながら、皆さんと共に考えていきます。

■プロフィール

早稲田大学理工学部卒業後、サイボウズに入社。一度転職し、再入社。
転職経験の中で、自分が働く上で大事にしているのがチームワークやコミュニケーションだと気づき、チームワークを高めるソリューション提供をしているサイボウズでもう一度チャレンジしたいと思ったのが再入社の理由のひとつ。
営業部門、国内SMB市場のマーケティング戦略担当を経て、2018年1月よりチームワーク総研にて総括ディレクターを担当。
「サイボウズの働き方改革」などをテーマに、年間100件以上の講演を担当し、自らの出戻り経験や育児休暇体験を元にした、働き方改革講演が人気。

第二部 パネルディスカッション

子育て支援に先進的に取り組んでいる企業の取り組みを聞きながら、今後どのように支援環境を整えていけばよいのか、皆さんと一緒に考えていきましょう。

パネリスト
株式会社タカヤ(いわて子育てにやさしい企業等認証取得・いわて働き方改革推進運動参加企業)
リコージャパン株式会社岩手支社(くるみん認証・いわて働き方改革推進運動参加企業・いわて働き方改革AWARD2016最優秀賞受賞・イクボス宣言)
株式会社ぴーぷる盛岡事業所(いわて働き方改革推進運動参加企業)

コメンテーター
和田 武訓氏(サイボウズ株式会社 チームワーク総研 総括ディレクター)

コーディネーター
庄司 知恵子氏(岩手県立大学社会福祉学部准教授)

【お申込・お問合せ先】

(公財)いきいき岩手支援財団 総務健康支援課
盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3階
TEL 019-626-0196 FAX 019-625-7494 E-Mail：wlb@silverz.or.jp

共催 岩手県、岩手県立大学
後援 岩手労働局、(一社)岩手県経営者協会、(公財)岩手労働基準協会、岩手県社会保険労務士会、岩手県男女共同参画センター、いわて未来づくり機構

ふるさと発見！大交流会 In Iwate 2020年11月23日

インターンシップ in 子育て支援が整っている企業

WORK & LIFE

いわてオリジナルのインターンシップと働き方改革
〜実はイケてるいわてのインターンシップ〜

なぜ、企画したか？

「出産を機に仕事を辞めた友人も多いので、企業を見る目を養ってから就職したかった」

平成30年度　ワーク・ライフ・バランス推進セミナーアンケート結果より
未来づくり機構子育て支援作業部会提供

子育て環境の良さ→岩手県への就職

『いわて未来づくり機構 岩手県への就職・進学に 関するアンケート報告書 』
（平成３１年２月 ふるさといわて創造作業部会）

社会に出る前に学生に子育てと仕事の両立について考えてもらいたい！
企業に子育て支援環境を整備することの大切さを理解してもらいたい！

お花畑の学生…

具体的な内容は？

株式会社タカヤ

- 8月23-27日/26-30日/26・27日
- 50名中11名が県内の大学
- 子育て支援制度・福利厚生についての説明
- 夫婦社員から育児と仕事の両立について、制度の利用について話題提供、ディスカッション
- 新しい子育て支援の仕組みや福利厚生を考えるワークショップ

リコージャパン株式会社 岩手支社

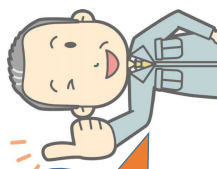
- ９月９-13日
- １名（県内の大学）
- 子育て支援制度、福利厚生についての説明
- 営業同行中における社員からの育児・仕事の両立についての話

やってみてどうだった？

みんな楽しく働いている

子育て中の社員の声を聴く良い機会になりました

育児と仕事の両立って、岩手でもできるんだ！！

学生さんの福利厚生についてのアイデアにびっくり。企業にとっても意義ありでした。

盛君、どうだった？

男子なのにどうして子育て支援企業に興味があったの！？？

WORK & LIFE

将来家庭をもって岩手で暮らしたいんです。

いわて未来づくり機構 ふるさといわて創造作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：　地元大学生及び首都圏大学生の岩手県内就職の促進

座長：小野寺純治　　　　担当団体：岩手大学

報告要旨

「ふるさといわて推進協議会」と「いわてで働こう推進協議会」等との連携により、地元大学生等と県内事業所とが交流を行う「ふるさと発見！大交流会in Iwate2019」を実行委員会方式により開催した。また、地域で働くことと暮らすことを学ぶ「地域志向型インターンシップ」が県内7地域で開催された。

さらに、国のCOC＋プロジェクト終了後の対応について関係者と協議・調整を行い、大交流会はいわてで働こう推進協議会が、地域志向型インターンシップについては各実施機関が継続して実施していくことを確認した。

なお、COC＋のレガシーを受け継いで地域創生を推進する組織体として株式会社イノベーションラボ岩手を設立するための関係者調整を行った。

１．令和元年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

【学生と県内事業所等との交流の場の創出】

令和元年6月26日	「ふるさと発見！大交流会in Iwate」令和元年度第1回実行委員会 ・規約、開催方針、出展要領、出展団体公募の審議・決定 ・学生実行委員会の活動報告
令和元年8月5日	同第2回実行委員会（メール審議） ・出展団体の決定と追加募集
令和元年10月8日	同第3回実行委員会（メール審議） ・追加出展団体の決定
令和元年11月1日	同第4回実行委員会 ・出展状況と会場配置、来場者見込み、出展団体説明会実施状況報告 ・当日のスケジュール確認
令和元年11月23日	「ふるさと発見！大交流会in Iwate2019」開催
令和2年3月16日	同第5回実行委員会（メール審議） ・「ふるさと発見！大交流会in Iwate2019」開催状況、収支報告、次年度以降の開催について協議

【地域志向型インターンシップの推進】

令和元年4月	岩泉町で本インターンシップを企画してきた穴田光宏氏を岩手大学客員准教授に委嘱し、各地域での開催状況を情報収集
令和元年8月～9月	穴田客員准教授が二戸、葛巻、岩泉、花巻、釜石、北上、一関での開催に合わせて現地ヒアリングを実施
令和2年1月28日	地域志向型インターンシップ情報交換会を開催

２．令和元年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
令和元年度活動計画	**令和元年度活動状況・成果・課題**
ふるさと発見！大交流会in Iwate2019の開催	11月23日にいわて産業文化センターを会場に開催し、151の出展団体と1,463名の来場者が交流した。その結果、来場者の満足度は96.8％（非常に満足35.6％、満足61.2%）であり、来年度以降の開催を望む者は95.1%であった。また、出展者の満足度は75%であった。しかし、高校生の参加が期待するほど伸びず、今後の課題となった。
地域志向型インターンシップの推進	地域志向型インターンシップは、二戸、葛巻、岩泉、花巻、釜石、北上、一関の7地域で地域志向型インターンシップが開催され、56名（うち15名が県外学生）の学生が参加した。開催地は年々増加しているが、各地域での開催方法等にばらつきが大きくなってきており、参加学生の学びの向上を図るために各地域での開催状況の確認し、グッドプラクティスの情報を共有するため、各地域の主催者及び行政関係者が出席した情報交換会を開催した。

３．今後の活動方針・予定

作業部会の活動としては令和元年度をもって終了したが、部会で取り組んできた事業は、関係機関等において発展的に継承され、実施されていくこととなった。

作業部会等での活動から見えてきた地域振興の主体としての若者への地域からの期待に応えるため、賛同する企業や個人の出資により株式会社イノベーションラボ岩手を設立してイノベーティブな思考を行う学生の育成や学生をスタッフとして雇用し、岩手県内外の企業や自治体・NPO等との連携により彼らの活躍の場をつくり広げていくこととしている。

※（株）イノベーションラボ岩手の活動状況

岩手県の「令和2年度起業家人材育成事業」を受託し、8月末から「いわてイノベーションスクール（イノスク）」及び「イノスク+」を開催して学生・社会人を対象とした人材育成事業を実施している。

あなたの未来を考えるキッカケに

地(知)の拠点

ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2019

11.23 土 祝

11時～16時

岩手産業文化センター アピオ ［滝沢市］

ものづくり・IT・食・観光など
150の企業・団体が大集合！

私服OK

どなたでも参加できます 高校生や保護者も大歓迎

会場までのシャトルバスあり 発着時刻等はHPで確認できます

HP http://cocplus.iwate-u.ac.jp/daikoryukai2019/index.html

昨年の様子こちらから

主催：「ふるさと発見！大交流会 in Iwate」実行委員会
共催：厚生労働省岩手労働局　公益財団法人いわて産業振興センター

ふるさと発見！
大交流会
in Iwate 2019

11:00-12:30 第1部　2階各会場

- インターンシップ&働き方改革フォーラム　観客席
- 介護職員のリアルトークとVRによる職場見学　A会議室
- 大学院生の地域に関する研究等の発表　ロビー

13:00-16:00 第2部　1階アリーナ

大交流会

軽食の販売あります

企業やNPOや自治体、大学研究室などがそれぞれの活動を紹介します

就職・進学で知りたいこと、気になることを、まるっと聞いてみましょう

「ふるさと発見！大交流会 in Iwate」実行委員会事務局（岩手大学COC推進室内）
電話：019-621-6053　e-mail：cocplus@iwate-u.ac.jp

詳細情報こちらから（随時更新）

3. 開催結果

◆ 出展

◆ 出展ブース数　151

（企業 114　NPO・社団法人 9　自治体 11　大学 17）

◆ 特別出展

- いわて産業振興センター
  会場の一部（1/4程度）を使用して支援企業をPR
- いわてで働こう推進協議会
  「未来のワタシゴト創造プロジェクト」をポスター発表（8枚）
- 岩手大学大学院総合科学研究科
  2階ロビーを活用して第1部で研究成果をポスター発表（20枚程度）
- 岩手労働局
  VRを活用した介護体験コーナーを設置

◆ イベント

- 第１部（11時～12時30分）では、「いわてで働き、暮らすことを考える」 をテーマに、1,2年生のうちに地域でのインターンシップを経験することの意義と子育て支援や働き方改革の現状を考えるパネルディスカッションを開催
- 第2部（13時～16時）では、出展者からのブースプレゼン（10分×6回）に加え、休憩時間等に学生サークルが場を盛り上げるイベントを実施

◆ 参加者　1,463名

《内訳》

- 参加高等教育機関の学生　832名
- その他大学・専修学校等　10名
- 高校生　56名
- 保護者・一般　80名
- 出展者　435名
- 関係者　50名

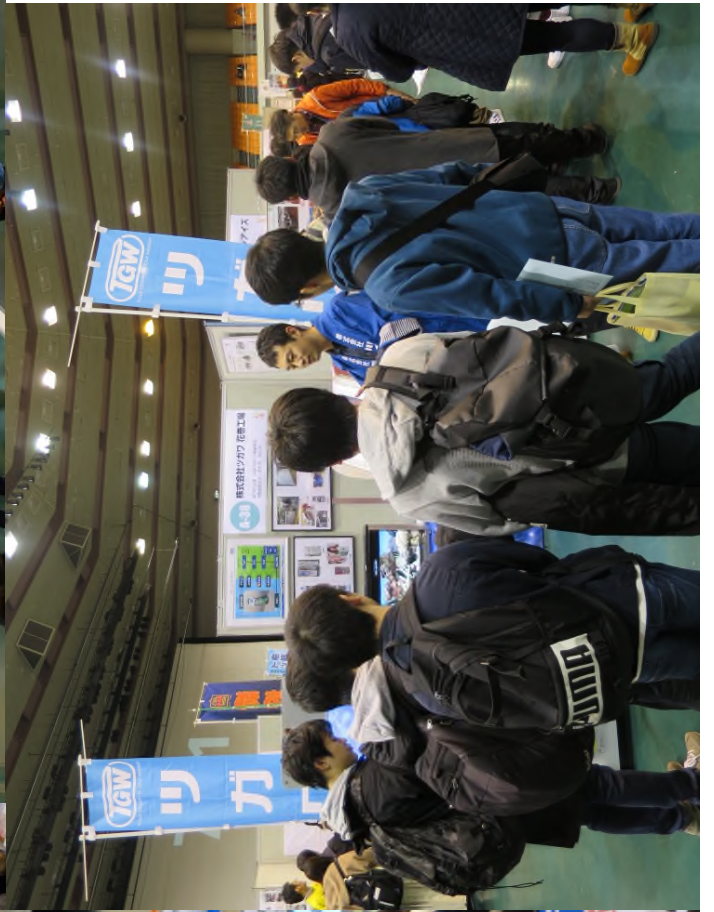
◆ 来場者アンケート

◆ 満足度　96.8%（非常に満足35.6%、満足61.2%）

◆ 次年度以降も開催した方が良いか　思う　95.1%

◆ 出展者満足度　75%

7

SUMITOMO LIFE
IGW

令和元年　地域志向型インターンシップの取組

地域	実施者	実施日数	参加者	うち県外学生	特記事項
二戸	市＋民間企業	4泊5日	8名	3名	**二戸市**が**二戸地域雇用開発協会**に委託し、地域民間企業が受け入れ。学生には25,000円を上限に支援
葛巻	町＋3セク	4泊5日	21名	4名	**葛巻町**が企画から運営までを実施し、**（株）くずまきワイン**が受け入れ。学生の食費・宿泊費は無料、首都圏学生には15,000円を上限として交通費を支援
岩泉	町＋一般社団	7泊8日	9名	1名	**岩泉町**が**一般社団法人KEEN ALLIANCE**に企画から受け入れまでを委託して実施。学生の宿泊はコテージを活用した自炊であるが、経費は全て補助。盛岡～岩泉の送迎も実施。県外参加者は当該交通費も支援
花巻	民間	4泊5日	1名	1名	**地域おこし協力隊OB**（農業従事者）が近隣農家と連携して実施、学生は日替わりで農家を巡る
釜石	市＋地域DMC	4泊5日	6名	3名	**釜石市**が企画から受け入れまでを実施し、**株式会社かまいしDMC**が宿泊・食事を支援（学生負担なし）。自宅～釜石までの交通費は学生が負担
北上	民間	4泊5日	7名	1名	学生の募集は**北上雇用対策協議会**が、企画・受け入れは**（株）北日本リゾート**が協議会のアドバイスを受けて実施
一関	民間	6泊7日	4名	2名	**(有)かさい農産**が企画から運営までを実施。県外学生は横浜国大生であるが、大学から2万円を交通費として補助
合計			56名	15名	

株式会社イノベーションラボ岩手

設　　　立：2020年４月30日
資　本　金：800万円
事　業　所：岩手県盛岡市上田４－３－５
代　表　者：代表取締役社長　村上　勝俊
関係教員等：小野寺　純治　客員教授（COC+推進CD）

会社概要
　「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」において岩手大学が取り組んできた人材育成事業をベースに"イノベーション人材"の育成を行い、それら若者と企業経営者等との対話を通じて企業側の意識改革を促し、Society5.0の時代を切り拓く集団を形成し、学生と企業が一体となって新しいビジネスを生み出していく取組を行います。

学生の学びから実践への展開

段階	内容
卒業	・必要な人材は会社が雇用して新ビジネスを立ち上げ ・会員企業等への就職 ・研究者、公務員への道を選択 ・起業家へ向けた活動　etc.
ビジネス実践（3年度目以降）	基礎コース・応用コースを修了した学生のうち、更なる実践を希望する学生を社員として継続雇用し、大学研究者や自治体、企業等とともにプロジェクトとして課題解決に取り組む。
応用コース（次年度、定員：10名）	基礎コース修了者から選抜した学生を社員として雇用し、個別に取り組むテーマを設定し、必要な知識をWebラーニング等により習得するとともに、基礎コースの学生と課題提案企業との間のコーディネートなども行いながらスタッフやサポーター、会員企業等とともに取り組む。
基礎コース（初年度、定員：25名）	低学年次生を中心に募集し、長期の実践型インターンシップとして実施。取組の前半は座学、WSにより思考方法を鍛え企業家精神を磨く。取組の後半は有償インターンシップとして課題提案企業等とのグループワークにより課題解決に取り組む。

実践
学び

人材育む岩手大発企業

事業継承、地域と連携

イノベーションラボ岩手（盛岡）　ベンチャー認定受ける

　岩手大（小川智学長）は16日、盛岡市上田の市産学官連携研究センターで、大学発ベンチャー認定制度の2社の認定式を行った。このうち、4月に設立された同市のイノベーションラボ岩手（村上勝俊社長）は、同大の人材育成の取り組みを引き継ぎ、若者と地元企業をつないで新機軸を生み出す「イノベーション人材」の育成や、新たなビジネスの誕生を目指す。

　関係者ら約10人が出席。小川学長は「地域の企業などとの共同研究や産学連携が活発な岩手大で、大学発ベンチャーが育つのは大きい」とあいさつし、村上社長(39)に認定証を手渡した。

　同社の事業内容は、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」として同大で行った人材育成事業が基礎。本県で学び、活動する若者の人材育成や、地域企業の課題解決に向けた連携、大学の知的財産を活用した起業の支援などを行う。会員企業による会費を原資に、インターンシップなどでの学生の企業家精神養成講座も実施する。

　同社のアルバイト社員で同大農学部4年の飯野雄飛さん(21)は「ホームページの立ち上げ実務に関わっていて、緊張感を持ちながらいい経験ができている」と語った。村上社長は「若者と企業の対話を通じて、新しいビジネスを創造していきたい。岩手を豊かにすることに貢献したい」と意気込む。

　同日は同社のほか、列車事故が多発しているニホンジカ向け忌避剤の製造販売などを手掛ける岩手野生動物研究所（同市、西千秋代表社員）も認定を受けた。

　同大では2019年度、認定制度の規則を整備。認定されると▽技術、経営相談への対応▽知的財産の創出、活用支援▽実験室の提供―を行う。認定は今回で計13社となった。（高橋美恵）

小川智学長から認定証を受ける村上勝俊社長（左）

岩手日報
2020.6.17

いわてイノベーションスクールの教育システム全体像

基本的に、毎週土曜日に開催する「A：基礎講座」と「B：現地フィールドスタディ」で受講者のビジネスプラン構築力を高め、平日開催の「多様な地域リーダーと語らうクロストーク」「講座の補習」によって、よりアイディアに厚みを持たせるような教育システムを構築します。

A:「イノベーション基礎講座」の構成について

①思考力強化ステージ

広大で深淵な情報の海、多様な関わる人とのコミュニケーションから、課題を整理し、独創性を勝ち取る。
そのための「考える力」を掴む。

②社会環境把握力強化ステージ

岩手にいながら社会の状況を俯瞰して見る力を養う。デジタルトランスフォーメーション、ソサエティ5.0、SDGs、カルチャートレンド、平成までに積み残した日本の諸課題、時代を切り開く新サービス…。各テーマと関係の深いリーダーとの対話で「この社会」を知る。

③ビジネス構築力強化ステージ

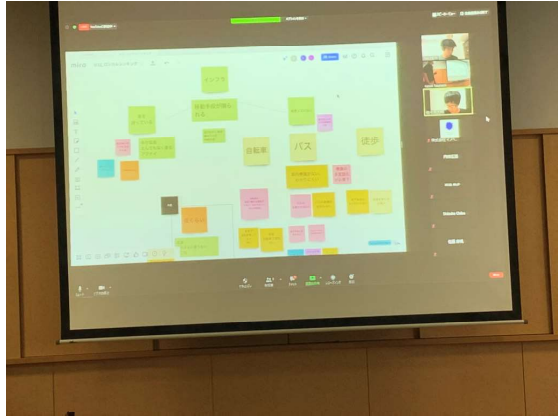
マネジメントやオペレーションを想定した「社会実装可能な事業構想」＝ビジネスプランに、アイディアの原石を磨き上げる。

あらゆる観点での
「社会状況とのつながり」
を理解していく。
複雑に絡み合う課題がわかる。

課題の本質を発見し
創造的な解決アイディアを導く

ビジネスプラン構築

誰をターゲットにするか？
持続可能な利益モデルか？
リソースはどう確保するか？　…等々

2020/9/16日_イノスク vol.2　ロジカルシンキング講座

学びとつながりを加速する平日開催の「イノベーションスクール＋」

運営体制とコラボMIUの施設を十分に活用できる利点を生かし、土曜の講座だけでなく、平日固定曜日に「イノベーションスクール＋」という「集える場づくり」を開催します。

「イノベーションスクール＋」で開催する２つのテーマ

①イノベーションクロストーク

県内・岩手県出身の起業経験者等をお招きし、オンライン／オフラインでのクロストーク企画を実施します。

②キャッチアップサロン

土曜開催の講座だけでは、思考力等はなかなか身につかないと考えています。
そこで「補習」「予習」を行える場をつくります。